YANMAR

取 扱 説 明 書

ヤンマー背負式動力散布機

DMCY601F
DMCY801F



このたびは、お買い上げ
まことにありがとうございます。

当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使いかたをすると、事故を引き起こすおそれがあります。
お読みになった後も必ず製品の近くに保存してください。

重要なお知らせ

製品をご使用になる前に、取扱説明書を必ずお読みください。

〇ご挨拶

- ヤンマー背負式動力散布機をお買い上げいただき、ありがとうございます。

〇製品の使用目的

- この製品は２サイクルエンジン薬剤散布機です。水田などの薬剤散布に使用してください。目的以外に使用してはいけません。

〇製品の使用者について

- この製品は取扱説明書をよく読んで充分に熟知した人が使用してください。
- 取扱説明書をよく読んでいない人、風邪や疲労など体調のよくない人、１６歳未満の人は製品を使用しないでください。

〇取扱説明書について

- 本書には、製品の組立や操作、整備に必要な事項が書かれています。よく読んで理解してください。
- 本書はいつでも読めるように必ず保管してください。
- 本書が損傷により読めなくなったり、紛失した場合は、販売店から新しく取扱説明書を購入してください。
- 単位はＳＩ単位（国際単位系）を使用しています。（　）内は参考値ですので若干の換算誤差がある場合もあります。

〇製品の貸与、譲渡

- 本書で解説している製品を貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書とともに製品を貸与してください。製品を譲渡される場合は、本書を製品に添付してお渡しください。

〇保証書

- この製品には保証書が同梱されています。
- 使用目的以外の作業による製品の故障、あるいは改造による故障の場合は、保証の対象外になりますのでご注意ください。
- 詳しくは保証書をお読みください。

〇お問い合わせ先

- この製品についての内容や消耗品のご購入、修理などのご用命はお買い求めいただいた販売店にお問い合わせください。

〇おことわり

- 本書の内容は、製品の改良のため予告なしに変更することがあります。また、使用している図は説明をわかりやすくするため、現品と異なる場合があります。
- 本製品は一部部品の組立作業が必要となります。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら販売店にご相談ください。

（社）日本陸用内燃機関協会
小形汎用エンジン
排出ガス自主規制適合証

(C) 著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。

目　次

安全にご使用いただくために 4
警告表示 4
その他の表示 4
シンボルマーク 4
警告表示ラベルの貼付け位置 5
燃料の取扱い 6
エンジンの取扱い 7
製品の取扱い 8

1. 梱包部品一覧 13

2. 各部の名称と機能 14

3. 作業前の準備 15
3-1. 組立 15
3-2. 燃料の準備 17

4. エンジンの運転 19
4-1. エンジンの始動 19
4-2. エンジンの停止 21

5. 散布作業 22
5-1. 散布作業の基礎知識 22
5-2. 粉剤散布 23
5-3. ＤＬ 粉剤散布 23
5-4. 除草剤散布 24
5-5. 肥料散布 25
5-6. 吐出量と調量レバー（DMCY601F） 26
5-7. 吐出量と調量レバー（DMCY801F） 30

6. 点検・整備 34
6-1. 点検・整備の目安 34
6-2. 点検・整備要領 35
6-3. 故障診断表 38
6-4. 長期保管（３０日以上） 39

7. 仕様 40

8. その他 41
8-1. アクセサリ類（別売品） 41

安全にご使用いただくために

製品をご使用になる前に、この章を必ずお読みください。

❍ ここに記載されている「注意事項」は、安全に関する重要な項目です。必ず守ってください。
❍ 本文の中にも重要な「注意事項」を記載していますので、必ずお読みください。

◆ 印に続く文章は、「注意事項」を守らないと起こり得る結果を示しています。

警告表示

本書や製品では作業者などが人身事故を負う危険性のある事柄を、下記の警告表示で示しています。安全作業のためによく読んで必ず守ってください。

⚠ 危険	⚠ 警告	⚠ 注意
その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです	**その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです**	**その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです**

その他の表示

本書では警告表示以外に下記の表示を使って説明しています。

	**丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表します**

重要
重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている製品の使用、点検、保守、保管に関する重要な注意事項です

シンボルマーク

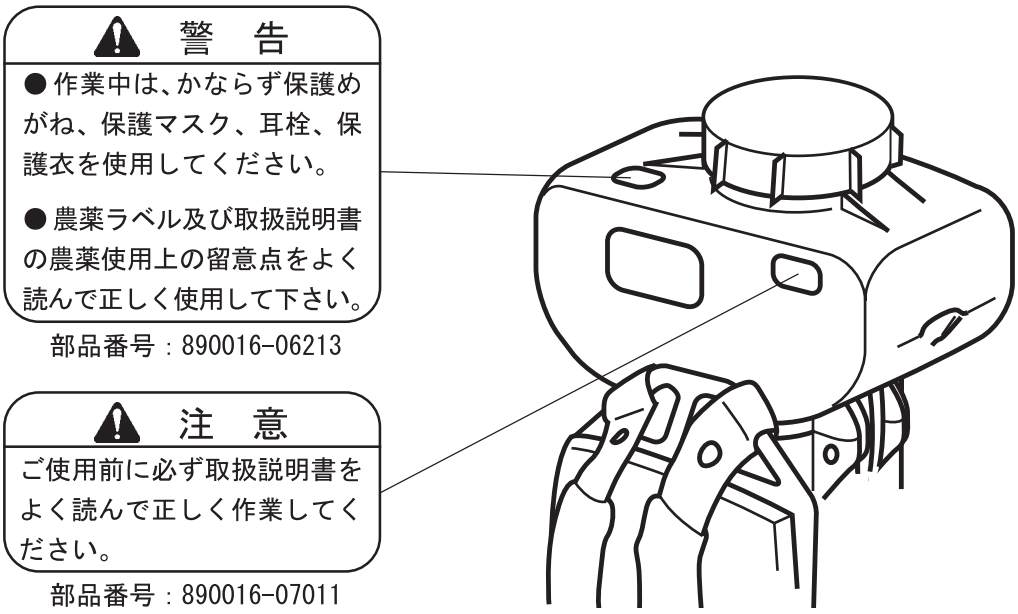
本書ではシンボルマークを使って説明しています。各シンボルマークの意味を充分に理解してください。

シンボルマーク	意味	シンボルマーク	意味
	**ご使用前に取扱説明書を読み、正しく作業すること**		**電気ショックに注意すること**
	**作業中は、保護具を必ず着用すること**		**高温部に注意すること**
	**製品を通気の悪い場所では使用しないこと**		**回転部の巻き込まれに注意すること**
	**火災に注意すること**		**毒性に注意すること**

安全にご使用いただくために

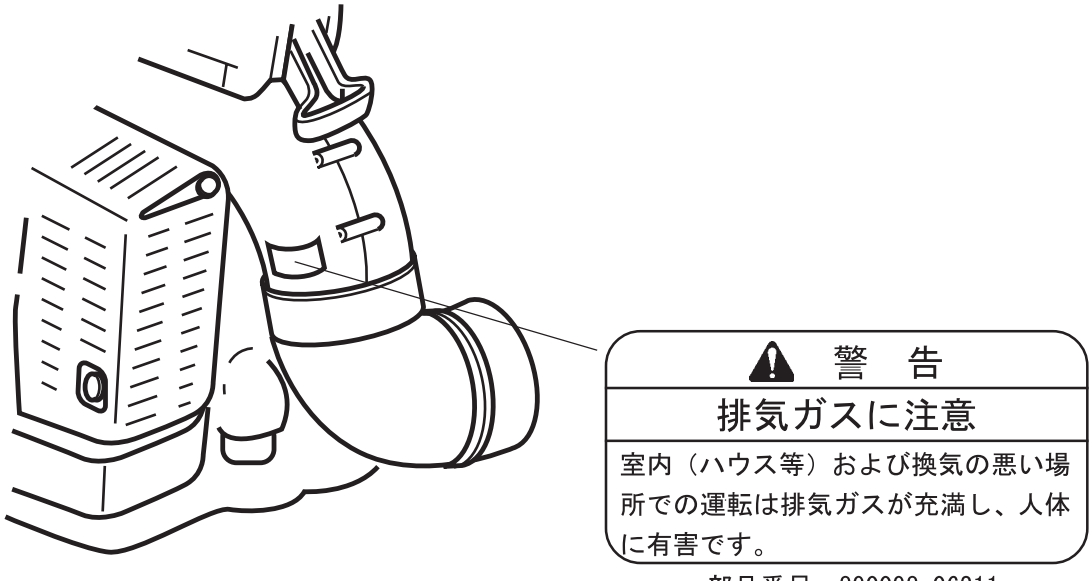
警告表示ラベルの貼付け位置

- 本書で解説されている製品には、下図の「警告表示」のラベルが貼ってあります。ご使用前にラベルの意味を理解してください。
- ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店から新しくラベルを購入し、下図に指示してある箇所に貼り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。



部品番号：890016-06213

部品番号：890016-07011



部品番号：890098-06211

安全にご使用いただくために

燃料の取扱い

この製品に使用する燃料は、レギュラーガソリンと２サイクルエンジンオイルを混合した「混合燃料」です。混合燃料の詳細は 17 ページの「燃料の準備」を参照してください。

⚠ 危 険

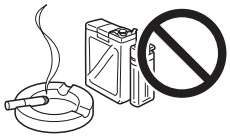
燃料給油時は火気厳禁

燃料は非常に引火しやすいので、取扱いを誤ると火災の危険があります。次の項目を必ず守ってください。

- **燃料給油中にタバコを吸ったり、火花を近づけない**
- **エンジンが熱いときやエンジン運転中は、燃料補給をしない**

◆ 燃料に引火して火災を起こしたり、火傷を負うことになります。





⚠ 警 告

静電気は火災の原因

ガソリンは容器内部で揺られると、静電気を帯びやすい性質を持っています。給油時の放電による火災を防ぐため、次の項目を守ってください。

- **運搬に用いた鋼板製のガソリン携行缶は、地面に置いて静電気を逃がす。**
- **ポリミックス（別売品）で燃料を混合した後は、数分間静置して静電気のレベルを下げる。**
- **作業者は、給油前に手のひらを地面や金属などに押し当てて、自身の静電気を逃がす。**
- **製品は、エンジンを停止のまま充分に冷えた状態になるまで地面に置き、静電気のレベルを下げる。**
- **燃料給油時に、金属製の漏斗（ろうと）を使用しない。**
- **湿度の低いときは、燃料容器や製品の燃料タンクを乾いた布で拭かない。**

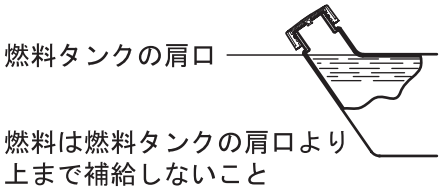
◆ 静電気が燃料に放電して、火災の原因となります。

こぼれた燃料は火災の原因

燃料給油時は、次の項目を守ってください。

- **燃料は燃料タンクの口元まで入れずに、規定レベル（規定レベル表示のないものは燃料タンクの肩口）以下に補給**
- **燃料を入れすぎてあふれたり、こぼれた場合はこぼれた燃料を拭き取る**
- **燃料を給油した後は燃料タンクキャップを確実に締付ける**

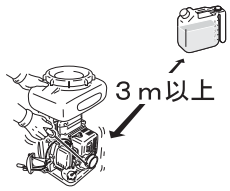
◆ こぼれた燃料に引火して火災や火傷の原因となります。



燃料補給地でのエンジン始動禁止

- **燃料を補給した場所でエンジンを始動してはいけません。エンジンを始動する前に、燃料を補給した場所から３ｍ以上移動してください。**

◆ 燃料補給時の漏れた燃料に引火し火災の原因となります。

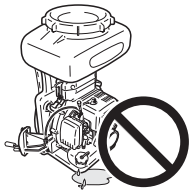


燃料漏れは火災の原因

- **燃料補給後に、必ず燃料パイプ、燃料系グロメット、燃料タンクキャップ周辺から燃料の漏れやにじみがないかを確認してください。**
- **燃料の漏れ、にじみがある場合は直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。**

◆ 燃料漏れがあった場合、火災の原因となります。





ポリ容器での燃料運搬・保管は禁止

燃料はできるだけ使い切ってください。燃料を運搬あるいは保管する場合は、次の項目を守ってください。

- **鋼板製のガソリン携行缶で運搬・保管**
- **保管期間は１ケ月程度**
- **ポリ容器やペットボトルに燃料を入れて運搬・保管することは禁止**

◆ ポリ容器での運搬や保管は法律で禁止されており、火災の原因となります。



安全にご使用いただくために

エンジンの取扱い

警 告

エンジン始動時

エンジンを始動するときは、特に次の項目を守ってください。

- **❍ ボルトやナット類にゆるみがないことを確認**
- **❍ 燃料が漏れていないか確認**
- **❍ 燃料戻りパイプが折れ曲がっていないか確認**
- **❍ 薬剤タンクキャップはしっかり締付け**
- **❍ 製品を背負ったままでエンジンの始動禁止**
- **❍ 製品を平坦で通気のよい場所に置く**
- **❍ 周囲は広くとり、人や動物を近づけない**
- **❍ 障害物は取除く**
- **❍ 調量レバーは閉じる**
- **❍ スロットルレバーはスタート位置**
- **❍ 製品を地面にしっかりと押え始動操作**

◆「注意事項」を守らないと、死亡を含む傷害や事故を負う原因となります。

始動後は異常振動・異常音の確認

- **❍ エンジンを始動したら、異常振動・異常音が発生していないか確認してください。異常振動・異常音がある場合は製品を使用してはいけません。販売店に修理を依頼してください。**

◆ 部品の脱落、飛散などの事故により、ケガや重傷を負う原因となります。

運転中は高温部、高電圧部に接触禁止

製品の運転中および停止後しばらくの間は、次の高温部や高電圧部に触らないでください。

- **❍ マフラやシリンダなどの高温部**

◆ 高温部に触れると火傷します。



- **❍ スパークプラグ、プラグコードなどの高電圧部**

◆ 運転中に高電圧部に触れると感電します。



発火・発煙したらまず安全確保

- **❍ エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、まず身体から製品を離し、身体の安全を確保してください。**
- **❍ 周囲に類焼しないようにシャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。**

◆ あわてて対処しようとすると、火災やその他の傷害の拡大につながります。

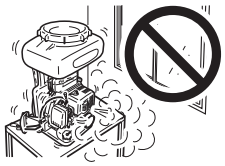


排気ガスは有毒

- **❍ エンジンの排気ガスには、有毒なガスが含まれています。屋内やビニールハウスなど通気の悪い場所で製品を運転しないでください。**

◆ 排気ガスによる中毒事故の原因となります。





点検・整備時はエンジン停止

作業後に製品の点検・整備を行なう場合は次の項目を守ってください。

- **❍ エンジンを停止し、エンジンが冷えてから点検・整備**

◆ 火傷を負う原因となります。

- **❍ スパークプラグキャップを外して点検・整備**

◆ 突然の始動により事故を起こすことがあります。

スパークプラグの点検

スパークプラグの点検では次の項目を守ってください。

- **❍ 電極やターミナルの摩耗、ガイシに亀裂がある場合は新品と交換**
- **❍ スパークプラグの火花を確認する発火テストは販売店に依頼**
- **❍ シリンダのプラグ孔付近での発火テストは禁止**
- **❍ 燃料がこぼれたり、燃えやすいガスがある場所での発火テストは禁止**
- **❍ スパークプラグの金属部に触れることは禁止**

◆ 引火による火災および感電事故の原因となります。





安全にご使用いただくために

製品の取扱い

■一般的なご注意

警 告

取扱説明書

❍ ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。



◆ 事故や重傷を負う原因となります。

製品の使用目的以外の使用禁止

❍ 製品を取扱説明書に記載されている使用目的以外の用途に使用してはいけません。

◆ 事故や重傷を負う原因となります。

製品の改造禁止

❍ 製品を改造してはいけません。

◆ 事故や重傷を負う原因となります。製品の改造が原因で故障した場合は、メーカー保証の対象外となります。

点検・整備をしていない製品の使用禁止

❍ 点検・整備をしていない製品を使用してはいけません。定期的な点検・整備を必ず行なってください。

◆ 事故や重傷を負う原因となります。

製品の貸与、譲渡

❍ 製品を貸すときは借りる人に、取扱説明書と共に製品を貸してください。

❍ 製品を譲る場合は取扱説明書を添付して製品を渡してください。

◆ 事故や重傷を負う原因となります。

ケガへの備え

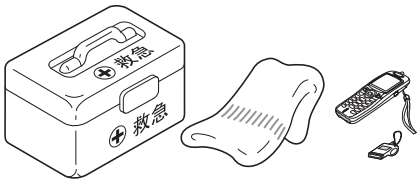
万一の事故やケガへの準備をしてください。

❍ 救急箱（応急手当用）

❍ タオルやてぬぐい（止血用）

❍ 呼子や携帯電話（外部との連絡用）

◆ 応急手当や外部への連絡ができず、症状が悪化する恐れがあります。



■作業上のご注意

警 告

製品の使用者

次の項目に該当する人は製品を使用しないでください。

❍ 疲労している人
❍ 酒を飲んでいる人
❍ 薬物を服用している人
❍ 妊娠している人
❍ 体調不良の人
❍ 取扱説明書を読んでいない人
❍ １６歳未満の人
❍ 農薬の影響を受けやすい人



◆ 事故の原因となります。

製品の使用環境・作業環境

❍ 急傾斜地や雨上がりなどの足元が不安定な場所では滑りやすく危険なので、製品を使用しないでください。

❍ 夜間や視界が悪く暗い場所などでは製品を操作しないでください。

◆ 転倒や滑落、誤った操作などにより重傷を負う原因となります。

健康管理

❍ 健康のために、休憩を取りながら余裕を持って作業してください。

❍ 長時間の連続作業は避け、２時間を限度としてください。

◆ 健康障害を受ける恐れがあります。

安全にご使用いただくために

⚠ 警 告

薬剤の取扱い

- **薬剤はタンクからあふれるほどの量を入れないでください。また、こぼれた薬剤はすぐに拭き取ってください。**
- **薬剤タンクキャップはしっかりと締め、運転時に薬剤が漏れないようにしてください。**

◆ こぼれたり漏れた薬剤は、放置しておくと薬害の原因となります。

製品使用時

製品を使用するときは、特に次の項目を守ってください。

- **作業場所に、作業に関係のない人や動物を近づかせない**
- **噴管を人や動物に向けない**
- **足場の悪い場所では製品を使わない**
- **噴管と散布ホースは、しっかりと握る**
- **全装備での製品操作は、バランスを失わないように注意**
- **製品を背負ったときに、背負バンドと操作レバーがもつれないように注意**
- **夜遅くまたは朝早く近隣の人に騒音で迷惑をかけるときは、製品の使用を避ける**

◆ 事故や障害の原因となります。

製品は常に正立状態で使用

- **製品は真直ぐに立てた状態で使用するよう設計されています。使用時および移動時に、横にしたり極端に傾けたりしないでください。**

◆ 燃料漏れや薬剤漏れの原因となります。

運転中は薬剤タンクキャップをゆるめない

- **エンジン運転中に、薬剤タンクキャップをゆるめたり開けてはいけません。**

◆ 薬剤が吹き出し、事故の原因となります。

巻き込まれに注意

- **髪の毛がファンに巻き込まれないように注意してください。**
- **運転中はエンジンと背当ての間に絶対に手を入れないでください。**

◆ ファンの風圧により、巻き込まれて重傷を負う原因となります。



異常時は直ちにエンジン停止

- **作業中に製品が突然異常な音を発したり、異常な振動をした場合は、直ちにエンジンを停止してください。**
  異常振動・異常音がある場合は製品を使用してはいけません。販売店に修理を依頼してください。

◆ 故障した製品をそのまま使用すると、事故や障害の原因となります。

移動時はエンジン停止

次のようなときは、エンジンを停止し製品を背負った状態で移動してください。

- **作業場へ移動するとき**
- **作業中に他の場所へ移動するとき**
- **作業場から帰るとき**

◆ 火傷や重傷を負う原因となります。

- **車で運搬する場合は燃料タンクをカラにして、製品を立てた状態で動かないようにしっかり固定してください。**

◆ 燃料を入れたまま車で移動すると、火災の原因となります。

製品の保管場所

- **燃料ガスが充満している密閉された場所や、裸火、火花のある場所に製品を保管しないでください。**

◆ 火災の原因となります。

安全にご使用いただくために

⚠ 警 告

第三者の立入禁止

- ❍ **作業を行なう場所をよく調べ、作業関係者以外の人・子供・家畜・養蚕・養蜂・他の作物などが近くにないことを確認してください。**
- ◆ 無防備な第三者の薬害事故や、環境被害の原因となります。



悪条件下での作業禁止

- ❍ **夜間や視界が悪く暗い場所では、製品による散布作業をしてはいけません。**
- ◆ 操作ミスによる事故や薬害の恐れがあります。
- ❍ **風が強いときには散布作業を行なわないでください。薬剤の分散を防ぐため、散布作業は風のない温度が安定している朝、または夕方を選んで行なってください。**
- ◆ 風に乗って予期しない方向へ農薬が飛び、薬害事故を引起す原因となります。
- ❍ **散布は、風下に向かって行なってください。**
- ◆ 作業者側に薬剤が飛ぶ原因となります。

散布ホースの中持ち作業は禁止

- ❍ **散布ホースの中持ち作業は、農薬を浴びる恐れがあり、危険ですから絶対に行なわないでください。**
- ◆ 濃度の高い農薬が身体に付着し、薬害事故の原因となります。



作業中の飲食禁止

- ❍ **薬剤の散布作業をしながら、タバコを吸ったり食べ物・飲み物をとったりしないでください。**
- ◆ タバコや飲食物に付着した農薬が、それらを介して体内にはいる恐れがあります。



農薬散布後の圃場には立入らない

- ❍ **農薬散布直後の圃場に無防備で立入ってはいけません。除草などの管理作業はあらかじめ行なっておきます。**
- ❍ **第三者の立入にも注意してください。**
- ◆ 散布された農薬による薬害事故の原因となります。

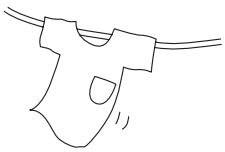
身体に異常を感じたら

- ❍ **作業中あるいは作業終了後に身体に異常を感じたときは、すぐに医師の診察を受け、使用していた農薬の種類を告げてください。**
- ◆ 処置が遅れることにより、重大な薬害につながることがあります。



作業時の着衣は、他と別に洗濯

- ❍ **薬剤散布作業中に着ていた服は、他の衣服とは別に洗濯してください。**
- ◆ 付着した農薬が、他の衣服に移る恐れがあります。



安全にご使用いただくために

■農薬使用上の留意点

農薬取締法が改正されました。

- **平成１５年３月の農薬取締法改正にともなう省令に基づく使用基準により**
  - **(1)　使用する作物に登録のある農薬を使用すること**
  - **(2)　使用濃度（希釈倍率）および面積あたりの使用量**
  - **(3)　収穫前使用日数**
  - **(4)　使用回数**

の４点については農薬使用者が遵守する義務が生じています。

警　告

農薬の取扱い

- **農薬の取扱いにあたっては、農薬ラベルをよく読み、必ず記載されている事項を確認してください。**
- **製品ならびに農薬の知識を持たない人が、農薬を取扱ってはいけません。**

◆農薬の誤った使用は、重大な薬害事故の原因となります。



硫黄を含む薬剤に注意

- **硫黄は大変燃えやすい物質です。硫黄分を含む薬剤を使用するときは、薬剤のラベルに従って、充分注意して取扱ってください。**

◆硫黄に引火し火災の原因となります。



農薬使用上の注意

- **農薬散布時は、農業用マスク、手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用してください。農薬に直接触れないよう注意してください。**
- **作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼してください。**
- **農薬が目に入らないように注意してください。**
- **誤飲、誤食に注意してください。誤って飲み込んだ場合は、吐き出し、直ちに医師の手当てを受けてください。また、農薬使用中に異常を感じたときは、直ちに医師の手当てを受けてください。**
- **また、農薬の種類によっては、**
  - **農薬が目に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。**
  - **かぶれを生ずる場合がありますので注意が必要です。また、かぶれやすい人は、使用を控える必要があります。**
- **環境へ配慮した使用が必要です。**
  - **防除対象作物以外への飛散がないよう注意してください。**
- **農薬は、子供の手が届かない場所に保管してください。**

安全にご使用いただくために

■保護具

警 告

保護具の着用

❍ 適切な衣類と正しい保護具を身に付けてください。

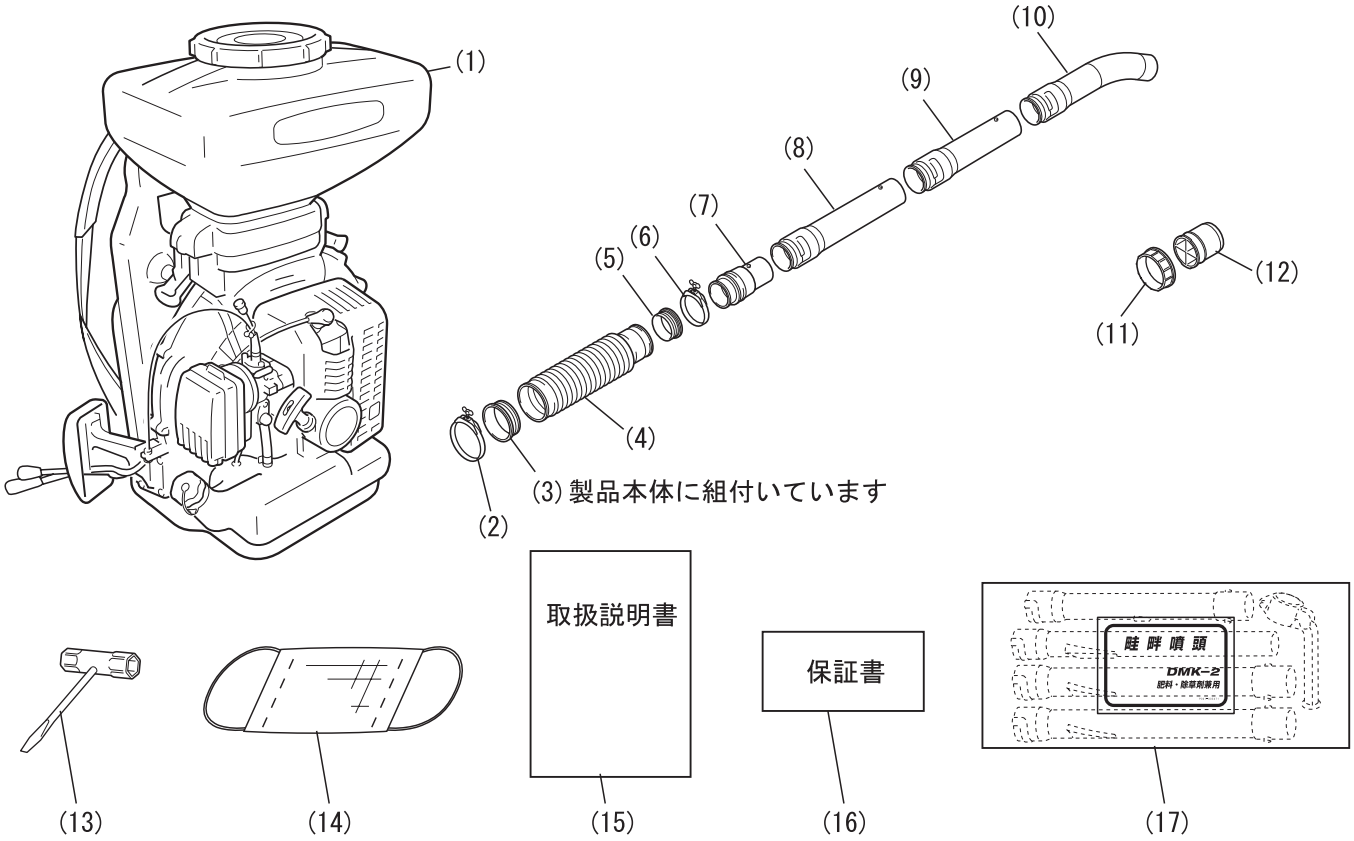
◆ 農薬に直接触れたり吸引すると、薬害事故を引起す恐れがあります。

製品には、農薬散布時に着用するマスクとして防除マスクを付属していますが、防毒マスクではありませんので、防毒マスクとしての使用はできません。



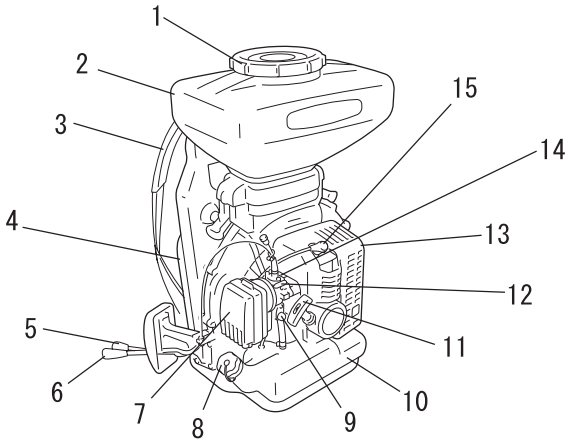
1. 梱包部品一覧

- 梱包箱の中には、下記部品が分かれて梱包されています。
- 梱包箱を解きましたら、中の部品を確認してください。
- 欠品や破損などがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。



番号	部品名称	個数	番号	部品名称	個数
(1)	製品本体	1	(10)	曲噴管	1
(2)	手締めバンド（大）	1	(11)	散布ホース締付具	1
(3)	出口パッキン	1	(12)	ホース継手	1
(4)	たわみ噴管	1	(13)	ソケットレンチ（１７×１９）	1
(5)	たわみ噴管パッキン	2	(14)	防除マスク（２個入り１パック）	1
(6)	手締めバンド	1	(15)	取扱説明書	1
(7)	回動噴管	1	(16)	保証書	1
(8)	直噴管	1	(17)	畦畔噴頭（DMK-2）	1
(9)	接続噴管	1			

2. 各部の名称と機能



1. 薬剤タンクキャップ	−	薬剤タンクを密閉するふたです。
2. 薬剤タンク	−	薬剤を入れる容器です。
3. 背負バンド	−	製品を背負う際に使用します。
4. 背当て	−	作業者が製品を背中で受け、保持するものです。
5. 調量レバー	−	粉剤、粒剤、肥料の吐出量を調節します。
6. スロットルレバー	−	エンジン回転数を調節するためのレバーです。
7. エアクリーナ	−	エンジンに供給される空気をきれいにします。
8. 燃料タンクキャップ	−	燃料タンクを密閉するふたです。
9. プライマリポンプ	−	エンジン始動前にこのポンプを押して、燃料タンクからキャブレタに燃料を送り込みます。
10. 燃料タンク	−	燃料を入れる容器です。
11. スタータグリップ	−	エンジンを始動するときに使用します。
12. チョークレバー	−	エンジン始動時に燃料と空気の混合比を濃くするレバーです。
13. マフラカバー	−	消音器（マフラ）をカバーし、作業者が不用意に熱いマフラに触れるのを防ぎます。
14. キャブレタ	−	空気と燃料を混合します。
15. スパークプラグ	−	エンジンの頭部に取付けられ、シリンダ内の混合気に点火するものです。

3. 作業前の準備

3-1. 組立

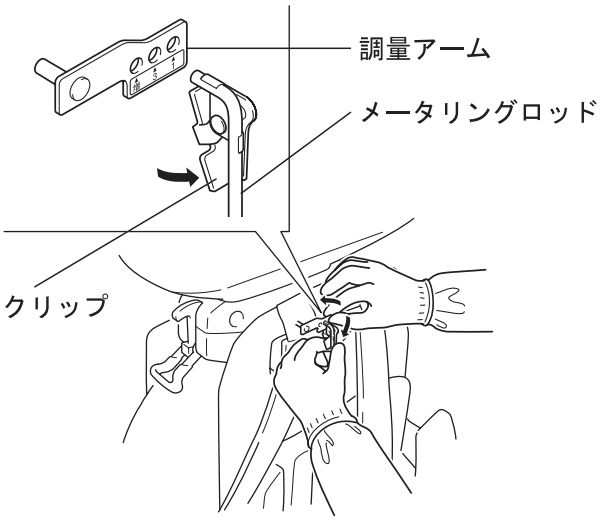
警 告

取扱説明書をよく読んで、正しく組立ててください。
◆ 誤って組立てた製品を使用すると、事故や重傷を負う原因となります。

■メータリングロッドの調整方法

重 要

薬剤タンクと調量シャッタは組付けられた状態で出荷されます。
清掃などのために薬剤タンクを取外した後の組付けについては、点検・整備の項（37 ページ）をご覧ください。

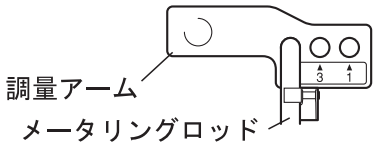
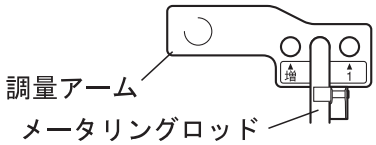
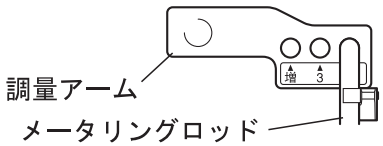


メータリングロッドは薬剤の種類や散布方法に合わせてセットする必要があります。製品出荷時は「増」にセットされていますが、必要に応じて調整しなおしてください。

1. **左図のように、左手でクリップを握り、右手で調量アームをつまんで、メータリングロッドを調量アームから外します。**
2. **メータリングロッドを調量アームのセットする穴位置に取付けます。**

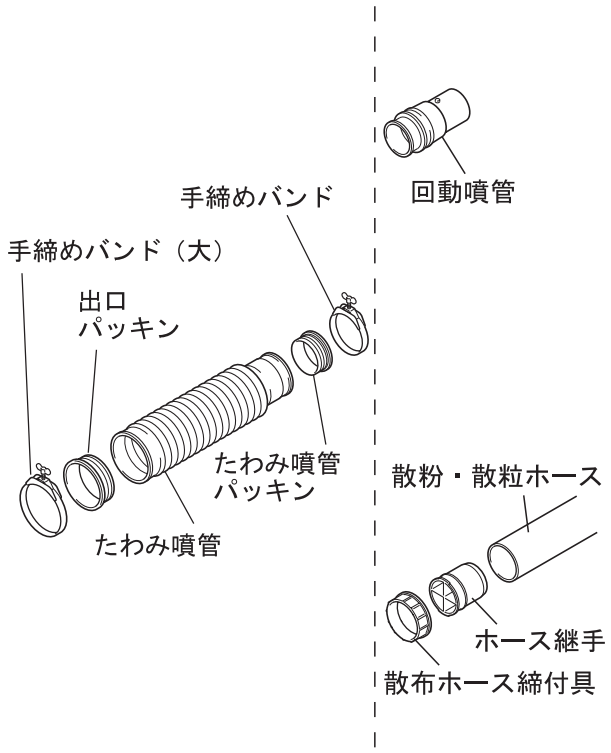
＊ **メータリングロッドと調量アームの取付け / 取外しは、調量アームが弧を描くように動かしながらすると簡単に行なえます。**
＊ **メータリングロッドのセット位置は表 1 を参照してください。**

表 1　メータリングロッドのセット位置・薬剤の種類・散布方法

メータリングロッドのセット位置	薬剤の種類、散布方法
「増」の位置 	**粉剤・DL 粉剤のホース散布** **肥料散布**
「3」の位置 	**3 キロ粒剤散布**
「1」の位置 	**粉剤・DL 粉剤の噴管散布** **1 キロ粒剤散布**

3. 作業前の準備

■たわみ噴管およびその他の噴管類の組付 / たわみ噴管および散布ホースの組付



--- 噴管への組付 ---

1. 左図および下図を参考に、製品の送風機出口にたわみ噴管、回動噴管、直噴管、接続噴管、曲噴管を組付けてください。パッキンは、先に回動噴管にはめておいてから、たわみ噴管に入れた方が組付けやすくなります。
2. たわみ噴管と回動噴管は手締めバンドで締めてください。

＊ 回動噴管は、直噴管または畦畔噴頭「DMK-2」を利用するときに使用してください。

--- ホースへの組付 ---

- 散布ホースは次のものが用意されています。
  ご利用目的に合わせてお選びください。
  （41 ページ参照）

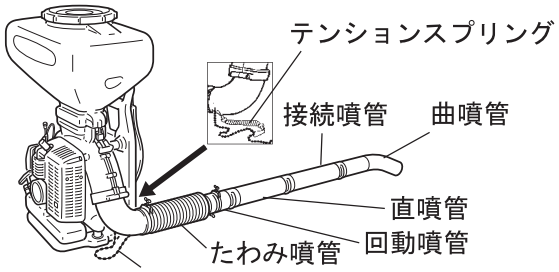
散粉ホース：２０、３０、４０、５０、５５、（６０）、[（８０）]m
散粒ホース：除草剤用　３０、４０、５０、５５、（６０）、[（８０）]m
　　肥料用　　２０、３０m

- （　）内のものは、使用時に散布ホース継手キットが必要な場合があります。（41 ページ参照）
- [　] 内のものは、DMCY801F のみ使用可能です。

1. たわみ噴管が背当てとほぼ平行になるようにセットします。
2. ホース継手の先に散布ホースをかぶせ、散布ホース締付具の先細りの部分で締付け、散布ホースを引いて抜けないことを確認してください。

＊ 吐粉・吐粒孔が、必ず真下になるようにしてください。

■静電気帯電防止用クサリ



静電気帯電防止用クサリ（地上にたらします）

- 製品には静電気帯電防止用クサリが組付いています。静電気帯電防止用クサリは、作業中に踏みつけてもクサリが切れないようにテンションスプリングがついていますので、そのまま地上にたらしてください。
- 製品を背負うときにクサリが背負架や背負バンドなどに絡まないよう注意してください。

3. 作業前の準備

3-2. 燃料の準備

危 険

燃料は非常に引火しやすいので、取扱いを誤ると火災の危険があります。本書の「安全にご使用いただくために」（6 ～ 7 ページ）記載の「注意事項」をよく読み、必ず守ってください。



◆ 燃料に引火して、火傷や火災を起こすことになります。

警 告

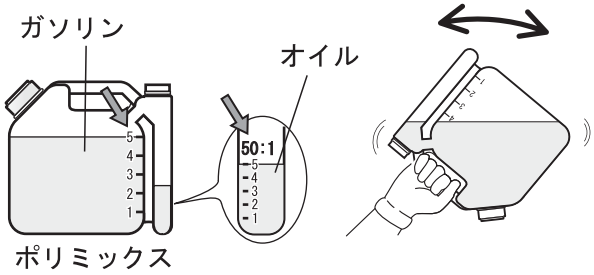
- **燃料を補給する際は手動式の燃料補給ポンプを使用し、機体が安定した状態で給油口からこぼさないように注意して補給してください。（電池式の灯油ポンプは使用しないでください）**
  製品に燃料が少しでもこぼれたら、必ず拭き取ってください。
- **燃料を補給する際は静電気の火花放電を避けるため、補給前に製品および補給用タンクを地面に数分間置くなどして、帯電している静電気をアースしてください。**
  また、作業者自身も手のひらを地面や金属に接するなどしてアースしてください。
- **燃料を補給した後は燃料タンクキャップを確実に締付け、必ず燃料パイプ、燃料系グロメット、燃料タンクキャップ周辺から燃料の漏れ、にじみがないことを確認してください。燃料の漏れ、にじみがある場合は直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。**

◆ 燃料に引火して、火傷や火災を起こす原因となります。

重 要

混合燃料は劣化しやすいので、使用する分量だけ混合してください。燃料の混合は、製品の燃料タンクで行なわないで、ポリミックス（別売品）を使用して、よく混合してください。

■燃料



- 燃料はレギュラーガソリン（**アルコール混入燃料はゴム製部品の劣化を早めます**）と、２サイクルエンジンオイルを混合した「混合燃料」です。
- ２サイクルエンジンオイルは ＪＡＳＯ 性能分類により「ＦＢ・ＦＣ・ＦＤ」の３種に分類され容器に表示しています。「ＦＡ」は ＪＡＳＯ の旧規格で定められていました。
- ２サイクルエンジンオイルの種類により以下の比率で混合してください。

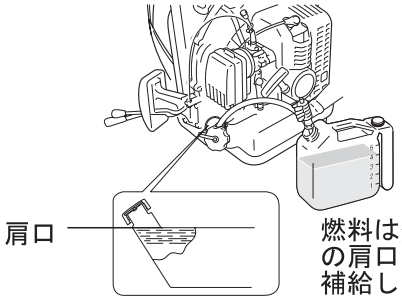
  ＦＣ・ＦＤ　　；［５０：１］
  ＦＡ・ＦＢ　　；［２５：１］

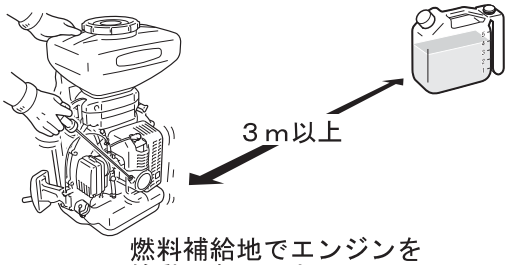
表 2　２サイクルエンジンオイルの種類と混合比

ガソリン (L)	２サイクルエンジンオイル（mL）	
	５０：１	２５：１
２	４０	８０
４	８０	１６０
５	１００	２００

3. 作業前の準備

■燃料補給





燃料補給地でエンジンを始動しないこと

- **燃料の補給作業は、必ず風通しの良い所で行なってください。**
- **燃料の補給作業は、製品と補給用タンクを地面に置いて行なってください。トラックの荷台の上などでは行なわないでください。**
- **燃料は必ず燃料タンクの肩口以下に補給してください。**
  燃料タンクの肩口を超えると使用時キャブレタから燃料が漏れることがあり、火災の原因になります。
- **燃料タンクには、外気との間に圧力差が生じています。燃料を補給するときは、燃料タンクキャップをすこしゆるめて、圧力差を取除いてください。**
- **燃料タンクのキャップを開け、手動式の燃料補給ポンプなどでこぼさないように混合燃料を入れてください。（電池式の灯油ポンプは使用しないでください）**
- **燃料が少しでもこぼれたら、必ず拭き取ってください。ただし湿度が低いときは、乾いた布で拭くと静電気を帯びやすいので、水を湿らせた布で拭き取るようにしてください。**
- **エンジンを始動する前に、燃料を補給した場所から３ｍ以上移動してください。**
- **補給用タンクは火気のない日陰に置いてください。**

4. エンジンの運転

4-1. エンジンの始動

警 告

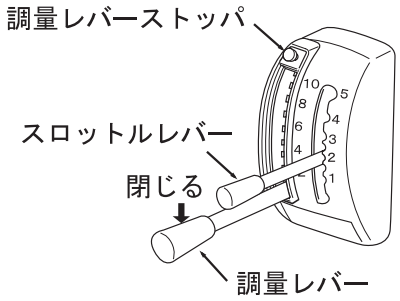
エンジンを始動する場合は、「安全にご使用いただくために」（4 ページ以降）記載の注意事項を守って正しく操作してください。

◆「注意事項」を守らないと、死亡を含む傷害や事故を負う原因となります。

重 要

- **エンジン始動時には、調量レバーは必ず閉じておいてください。**
- **噴管なしで運転しないでください。エンジン不調の原因となります。**
- **スタータグリップを引くときは、まず軽く引出し更に素早く引いてください。引きヒモの２／３以上は引出さないでください。**
- **スタータグリップを戻すときは、途中で手から離さないでください。**
- **エンジン始動操作のときに最初の爆発音が聞こえたら、チョークレバーを戻して再度スタータグリップを引くと始動します。最初の爆発音を聞き逃さないようにしてください。**

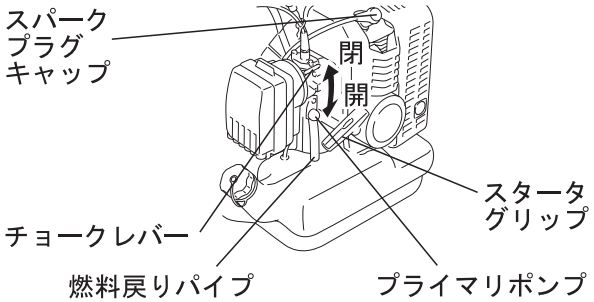
■冷えたエンジンの始動



（長期保管の後は、スパークプラグキャップを接続してください。）

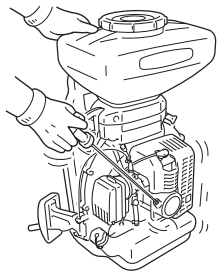
エンジンの始動には、冷えたエンジンの場合と暖まっているエンジンの場合があります。冷えたエンジンの始動は次のようにしてください。

1. **製品を平坦な地面に置き、噴管など作業に必要な部品が組付けられていることを確認します。**
2. **薬剤タンクキャップ、燃料タンクキャップが、しっかり締付けられていることを確認します。**
3. **燃料が漏れていないことを確認します。**
4. **スロットルレバーをスロットル開度目盛の２または３の位置にします。**



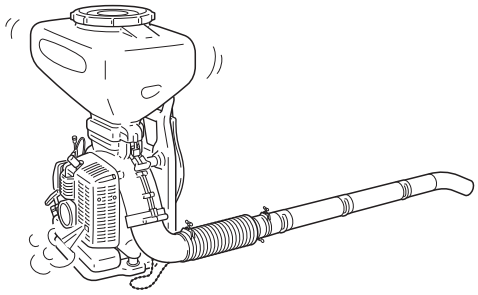
5. **チョークレバーを上側の「閉」の位置にします。**
6. **プライマリポンプを押す・離すの操作をくり返して、燃料戻りパイプから燃料が下がってくるのを確認してください。**

4. エンジンの運転



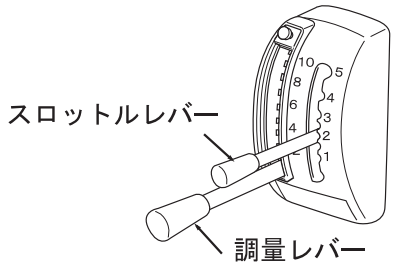
7. 周囲の安全を確認して、図のように薬剤タンクの肩などをしっかり押え、スタータグリップを数回引いてください。
8. 爆発音がし、すぐに止まった場合は、チョークレバーを「開」の位置にして、更にスタータグリップを引き始動させてください。
9. 上記 7. の操作ですぐにエンジンが始動したら、チョークレバーを徐々に「開」に戻してください。
10. 低速のままでしばらく暖機運転をしてください。

■エンジンの暖気運転

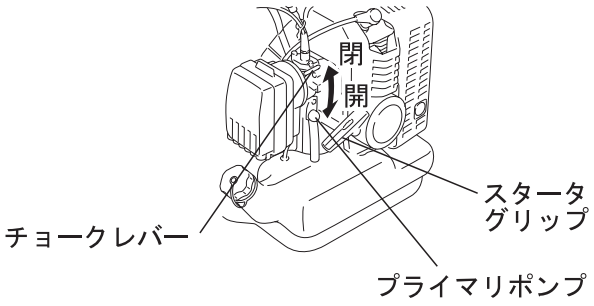


1. エンジンが始動したら、２～３分間、アイドリング（低速運転）で暖機運転を行ないます。
2. 暖機運転は、エンジン内部の潤滑を円滑にします。特に冷えているときは、充分に行ないます。
3. 噴管を取付けない状態での運転は絶対に行なわないでください。

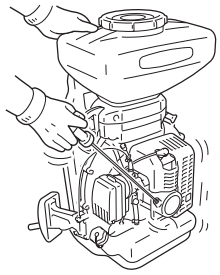
■暖まっているエンジンの始動



1. スロットルレバーをスロットル開度目盛の１または２にします。



2. チョークレバーが「開」の位置にあることを確認してください。
3. 燃料タンクがカラでなければ、スタータグリップを引いてエンジンを始動させてください。
このときプライマリポンプの操作は必要ありません。

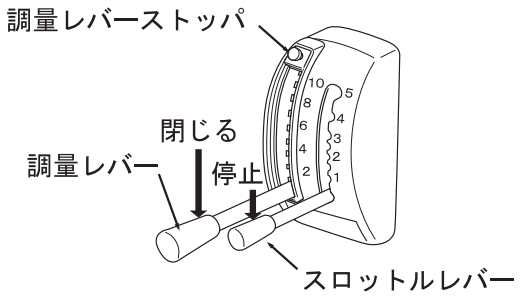


4. 周囲の安全を確認して、図のように薬剤タンクの肩などをしっかり押え、スタータグリップを引いてエンジンを始動させてください。

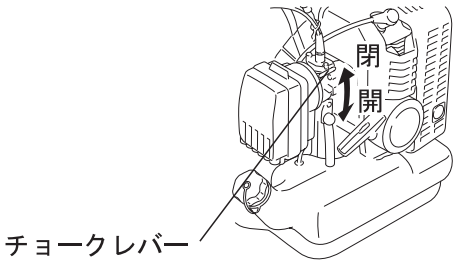
4. エンジンの運転

4-2. エンジンの停止

■エンジンの停止



1. まず調量レバーを閉じて、薬剤の吐出が完全に止まっていることを確認します。
2. スロットルレバーを低速位置（スロットル開度目盛１または２）まで下げ、エンジンをアイドリング（低速運転）状態にします。
3. スロットルレバーを一番下の位置にしてください。エンジンが停止します。



4. スロットルレバーを一番下の位置にしてもエンジンが停止しないときは、チョークレバーを「閉」の位置にしてください。エンジンは失速し停止します。（応急停止）

＊ スロットルレバーでエンジンが停止しなかった場合は、製品を再び使用する前に、お買い求めの販売店に点検と修理を依頼してください。

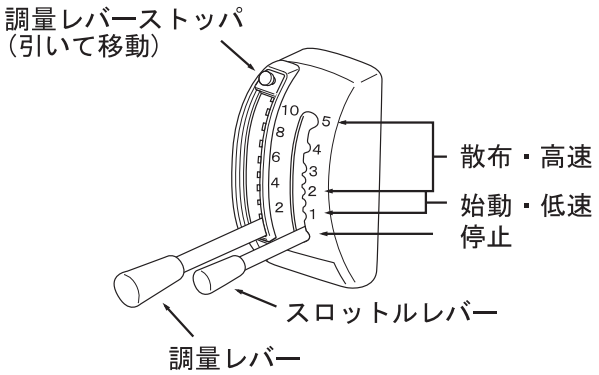
5. 散布作業

5-1. 散布作業の基礎知識

■粉剤の補給

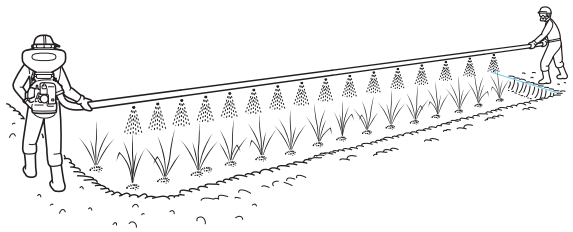
粉剤を薬剤タンクに入れたまま長時間放置すると固くしまり、吐出の状態が悪くなることがあります。粉剤は散布直前に補給してください。

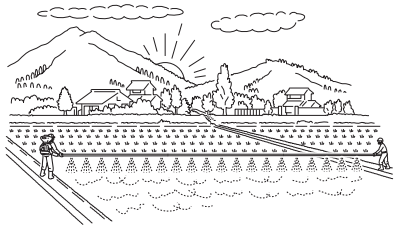
■調量レバーの操作と調量レバーストッパの使用方法

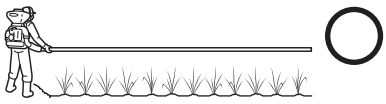


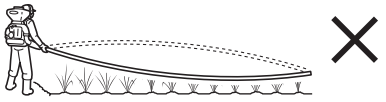
- **調量レバーは、エンジンを使用回転数に上げてから徐々に開けてください。エンジンの使用回転数は、散布する薬剤に応じてスロットルレバーでセットします。**
- **エンジンを停止または低速にするときは、必ず調量レバーを閉じてからスロットルレバーを下げてください。**
- **調量レバーは、下から上へ動かして目的の目盛位置で使用してください。上から下へ動かした場合は、正確な吐出量を得られないことがあります。**
- **調量レバーストッパは、散布する薬剤に応じて調量レバーの上限開度を規制するものです。「吐出量と調量レバー」（26 ～ 33 ページ）を参照して、それぞれの適正位置に調量レバーストッパを固定して使用してください。**

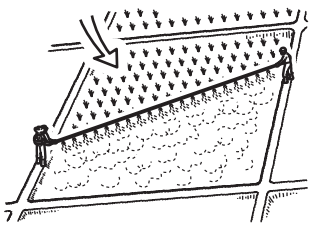
■散布ホースによる作業











製品を背負った作業者と、散布ホースの先端を保持する作業者の２人で、農道や畦畔などから散布することができます。

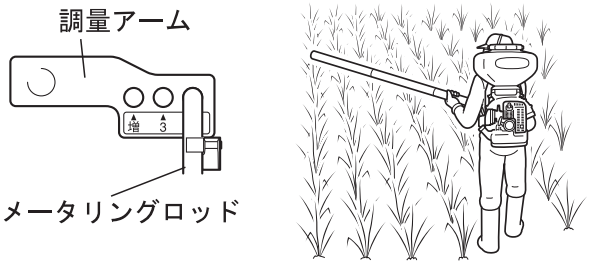
- **散布ホースは２０ｍ～８０ｍのものがあり、粉剤、粒剤を均等に散布することができます。**
- **各種の薬剤に対応して、一般粉剤用、ＤＬ粉剤用、紋枯用、粒剤用、肥料用のホースがあります。（41 ページ参照）**
- **散布時は、薬剤が防除対象部（草冠部または株元）で拡散されるようにホースの高さを調整・保持します。**
- **気象条件は、昼間は風の弱いときでも上昇気流によって散布した粉剤が飛散するので、防除効果が劣り適切でありません。夕方もしくは早朝の無風時が最もよく、早朝で霧のある場合は散布ホースを濡らさないように注意します。**
- **散布ホースは、作業中に水平になるように運転状態を調整します。最初にスロットルレバーでエンジン回転数を徐々に上げ、散布ホースを水平より多少上がりぎみにしてから調量レバーを徐々に開くと、薬剤が散布ホース内を通り水平になります。**
- **散布ホースの吐出口は、作物の草冠部から約１０ｃｍ離れた位置（病害虫によって位置を変える）とし、ホース先端部の保持者は、散布ホースを水平に保ち吐出口は真下に向けて散布するように注意をはらいます。**
- **防除作業に適する風の条件は、薬剤の付着率から風速２～３ｍまでが限度と言われていますが、風のある場合は風下から風上に向かって散布し、できるだけ農薬をかぶらないように注意します。**
- **散布ホースの中持ち作業は禁止されています。**

5. 散布作業

5-2. 粉剤散布

■噴管散布

重 要
エンジン回転数を上げ過ぎると、噴管操作がやりにくくなります。散布時のエンジン回転数は、必要以上に上げないでください。



メータリングロッドは「１」の位置にセット

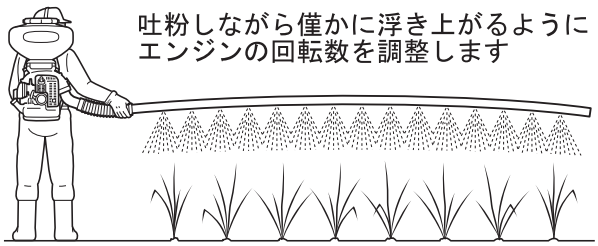
- メータリングロッドは、「１」の位置にセットします。（15 ページ参照）
- 調量レバーの開度目盛は、一般粉剤で８または９が適当です。
- スロットルレバーの位置（エンジン回転数）は、中間位置で使用してください。
- 調量レバーおよびスロットルレバーの位置は、実際の吐粉量を見て調整してください。特に風上から散布する場合は、飛距離が延びるのでやや押えぎみにします。

■散粉ホースによる散布

重 要
• 濡れた散粉ホースは、良い散布効果をえられないことがあります。ホースを濡らさないようにしてください。散布作業は、乾いたホースで行なってください。 • 散粉ホースを使用して大量に吐粉しながら、急にホースの根元を押えることは避けてください。散粉ムラやホース損傷の原因となります。 • 散粉ホースは、規定の長さで使用してください。



メータリングロッドは「増」の位置にセット



- メータリングロッドは、「増」の位置にセットします。（15 ページ参照）
- 散粉ホースを伸ばして、一人がホース先端を保持し、ホースが水平になるように引っ張り、たるまないようにして製品側の作業者と平行に歩きます。
- 散布時の調量レバーおよびスロットルレバーの基本位置および歩行速度は、「粉剤散布（３ kg/ １０ａ散布）」（26、30 ページ）の項を参照してください。ただし実作業場面で、若干の調整は必要となります。
- 調量レバーは、粉剤の出具合を見ながら徐々に開いてください。
- 吐粉しながら散粉ホースが僅かに浮き上がるように、スロットルレバーでエンジン回転数を調整し風量を決めます。
- 散布終了後は調量レバーを完全に閉めて（全閉）、薬剤を充分に出し切り、散粉ホースが濡れない所まで移動してエンジンを停止します。

5-3. ＤＬ 粉剤散布

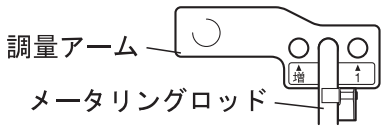
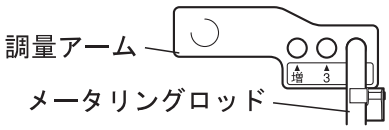
■散粉ホースによる散布

- ＤＬ 粉剤の散布は、一般の粉剤と同じ要領で散布しますが、調量レバーおよびスロットルレバーの位置は、そのときよりも一段程度下げて散布します。
- ＤＬ 粉剤は種類により吐出量が異なり、また吐出状態が見えにくいので、散布し過ぎないように充分注意して散布してください。

5. 散布作業

5-4. 除草剤散布

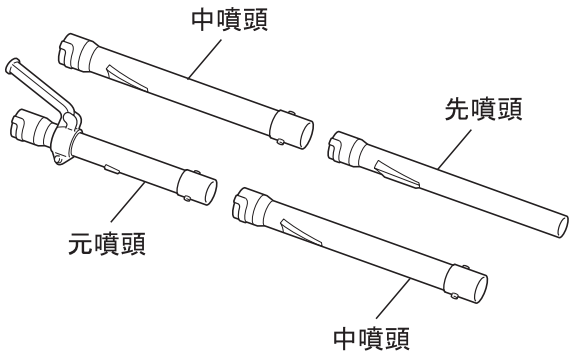
■メータリングロッドの調整

３キロ粒剤の散布 **メータリングロッドは「3」の位置にセットします。** **(15 ページ参照)**  メータリングロッドは 「３」の位置にセット	**１キロ粒剤の散布** **メータリングロッドは「1」の位置にセットします。** **(15 ページ参照)**  メータリングロッドは 「１」の位置にセット

■散粒ホース（除草剤用）による散布

- **操作は散粉ホースの操作と同じように、散布しながらホースが僅かに浮き上がるように、スロットルレバーでエンジン回転数を調整します。**
- **基本位置および歩行速度は、「除草剤散布（３キロ粒剤の散布)」(27、31 ページ)・「除草剤散布（１キロ粒剤の散布)」(28、32 ページ）の項を参照してください。ただし実作業場面で、若干の調整は必要となります。**

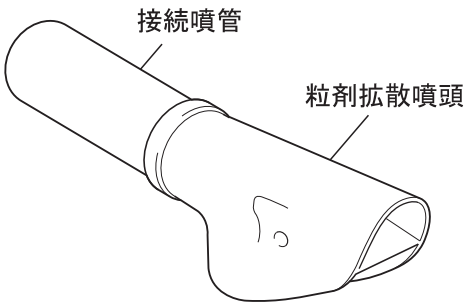
■畦畔噴頭（DMK-2）による散布



- **DMCY601F、DMCY801F ともに付属しています。**
  また、別売品として購入することもできます。
- **取扱いについては、畔畦噴頭に付属している取扱説明書をよくお読みください。**
- **基本位置および歩行速度は、「除草剤散布（３キロ粒剤の散布)」(27、31 ページ)・「除草剤散布（１キロ粒剤の散布)」(28、32 ページ）の項を参照してください。ただし実作業場面で、若干の調整は必要となります。**
- **エンジン回転数を充分に上げ、畦畔噴頭は３０°程度上向きにすると、均一に散布できます。**
- **風の方向や強さによっては、噴頭角度の調整が必要な場合があります。また風上から風下に向かって散布すると飛距離が延びるので、これを考慮して散布してください。**
- **３キロ粒剤の場合、無風時の最大有効散布幅は以下のとおりです。**
  DMCY601F：１４ｍ
  DMCY801F：１４ｍ
- **１キロ粒剤の場合、無風時の最大有効散布幅は以下のとおりです。**
  DMCY601F：１７ｍ
  DMCY801F：１８ｍ
- **３キロ粒剤の場合、散布量を加減して散布したいときは畦畔噴頭を振りながら散布してください。**

5. 散布作業

■粒剤拡散噴頭（別売品）による散布



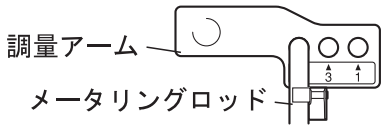
- 粒剤拡散噴頭は別売品です。(41 ページ参照)
  粒状除草剤、粒状肥料の散布にご利用ください。
- 粒剤拡散噴頭は、接続噴管の先にしっかりはめこんで使用します。
- エンジン回転数はスロットルレバーの開度５（全開)、調量レバーは開度３で使用しますが、粒剤の種類により吐出量が変わりますので、調量レバーの開度は実際の吐出量を見て調整してください。
- 粒剤拡散噴頭の角度は、１５°程度上向きにすると均一に散布できます。

5-5. 肥料散布

重 要

- 粒径３．５ ㎜ 以上の肥料は、ホースで散布するとホース内に残留することがあります。
- 吐出量を約１０ kg/min 以上にすると、ホース内に肥料が残留することがあります。
- ホースで２０ kg/ １０ a 散布のときは、１０ kg/ １０ a で往復散布してください。
- 肥料の粒径や湿度などの変化により、吐出量が異なりますので注意してください。
- 畦畔噴頭（DMK-2）で被覆肥料（LP コート、セラコートなど）を散布の際は、スロットルレバーを３～４の位置にしてください。

■肥料散布の留意点



メータリングロッドは
「増」の位置にセット

- メータリングロッドは、「増」の位置にセットします。(15 ページ参照)
- 基本位置および歩行速度は、「肥料散布」(29、33 ページ）の項を参照してください。ただし実作業場面で、若干の調整は必要となります。

※散粒ホース（肥料用）による散布

- 取扱要領については、散粉ホースに準じます。

※畦畔噴頭（DMK-2）による散布

- 取扱要領については、除草剤散布の項に準じます。
- 無風時の最大有効散布幅は以下のとおりです。
  DMCY601F：２２ ｍ
  DMCY801F：２３ ｍ
- 追肥などで散布量を加減して散布したいときは、噴頭を振りながら散布してください。

5. 散布作業

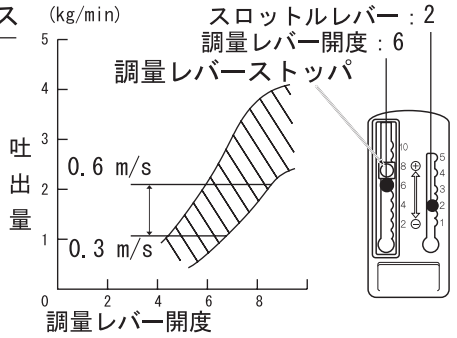
5-6. 吐出量と調量レバー（DMCY601F）

■粉剤散布（３ kg/ １０ a 散布）

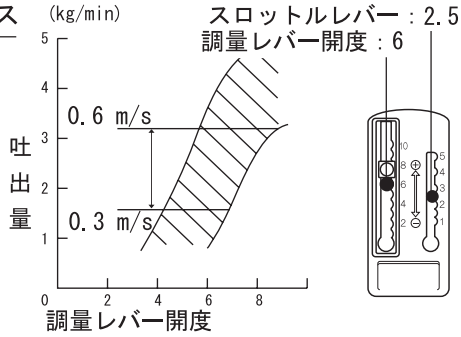
メータリングロッドは「増」の位置にセットします。（15 ページ参照）

- **歩行速度 0.3m/s ～ 0.6m/s が標準です。その範囲内で調量レバー開度を調整してください。**
- **調量レバーストッパは調量レバー開度の一段上にセットします。**

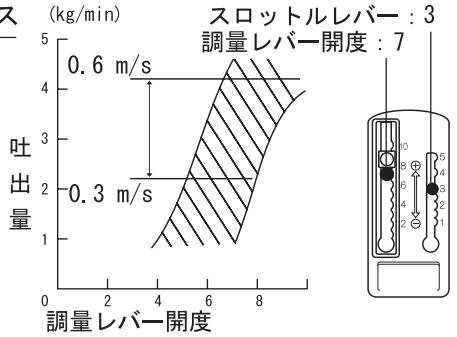
20m 散粉ホース



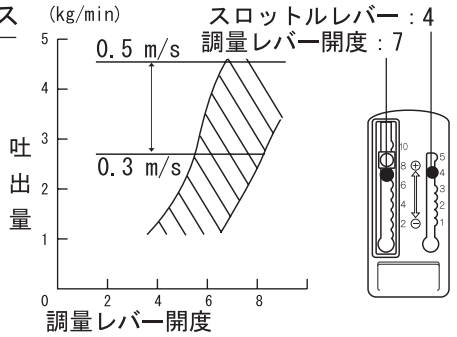
30m 散粉ホース



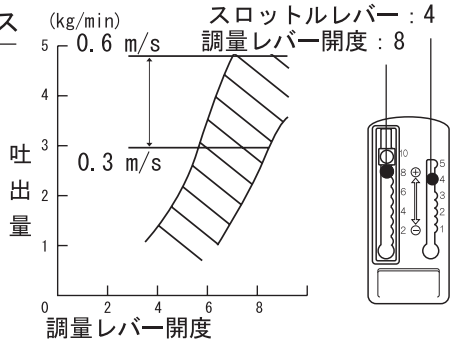
40m 散粉ホース



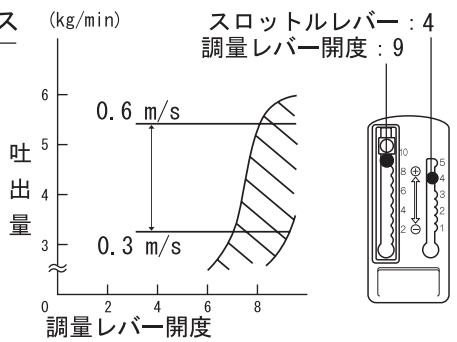
50m 散粉ホース



55m 散粉ホース



60m 散粉ホース



※６０ｍ散布ホースは、使用時に散布ホース継手キットが必要です。

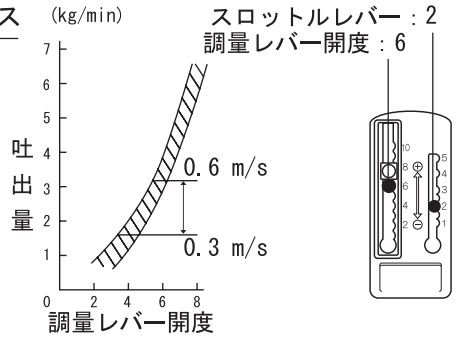
5. 散布作業

■除草剤散布（３キロ粒剤の散布）

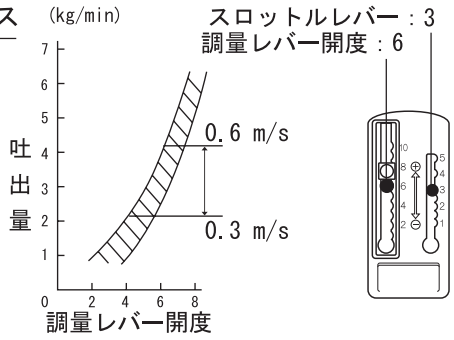
メータリングロッドは「３」の位置にセットします。（15 ページ参照）

- **歩行速度 0.3m/s ～ 0.6m/s が標準です。その範囲内で調量レバー開度を調整してください。**
- **調量レバーストッパは調量レバー開度の一段上にセットします。**

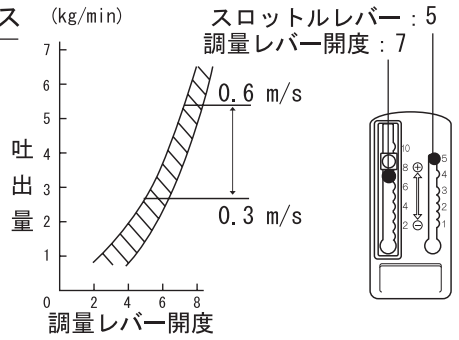
30m 散粒ホース



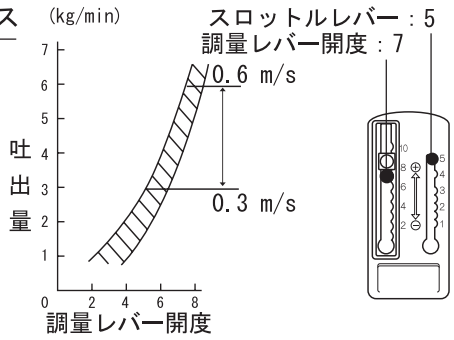
40m 散粒ホース



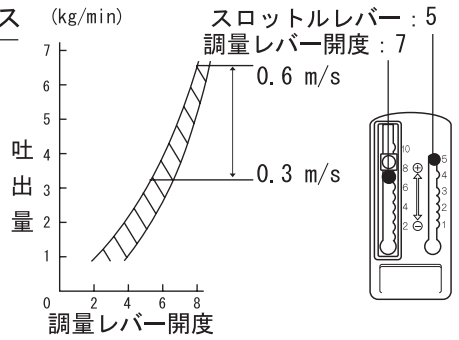
50m 散粒ホース



55m 散粒ホース

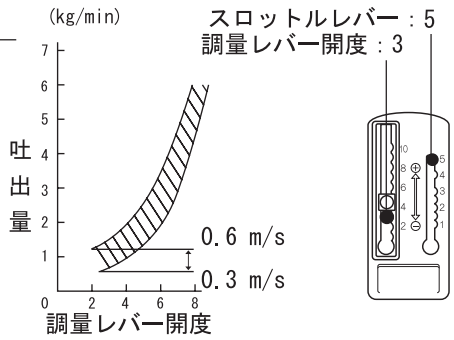


60m 散粒ホース



畦畔噴頭

散布幅
：12～14m



※６０ｍ散布ホースは、使用時に散布ホース継手キットが必要です。

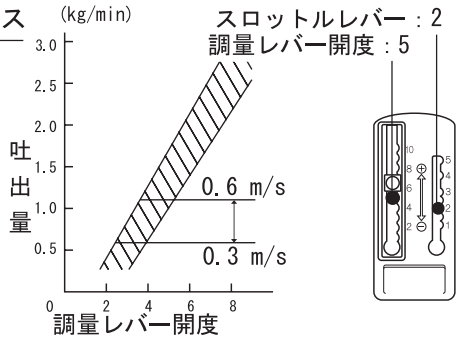
5. 散布作業

■除草剤散布（１キロ粒剤の散布）

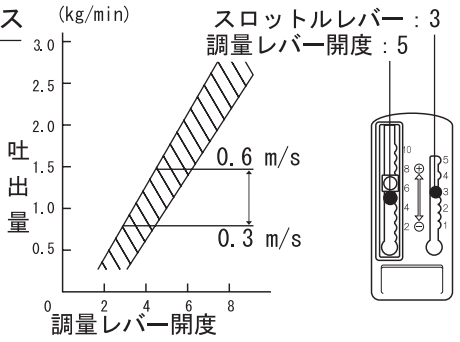
メータリングロッドは「１」の位置にセットします。(15 ページ参照)

- **歩行速度 0.3m/s ～ 0.6m/s が標準です。その範囲内で調量レバー開度を調整してください。**
- **調量レバーストッパは調量レバー開度の一段上にセットします。**

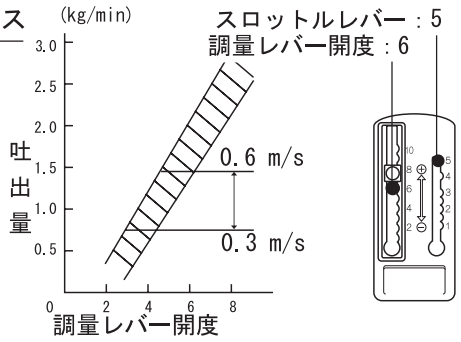
30m 散粒ホース



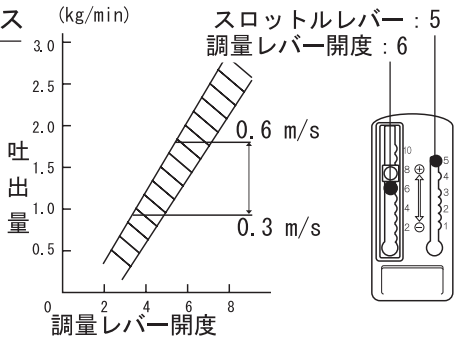
40m 散粒ホース



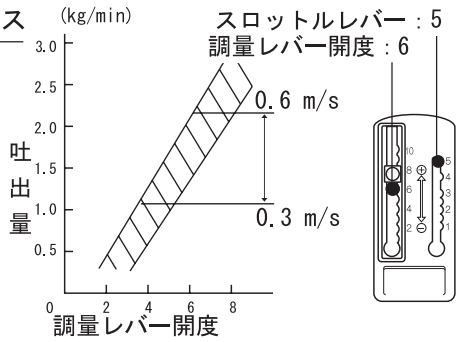
50m 散粒ホース



55m 散粒ホース

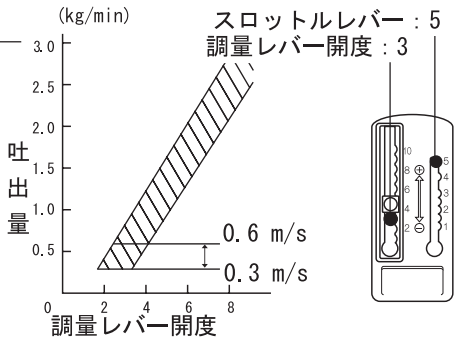


60m 散粒ホース



畦畔噴頭

散布幅
：14～17m



※６０ｍ散布ホースは、使用時に散布ホース継手キットが必要です。

5. 散布作業

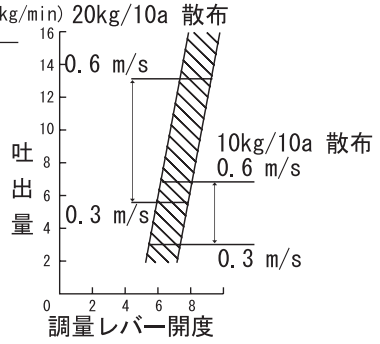
■肥料散布

メータリングロッドは「増」の位置にセットします。(15 ページ参照)

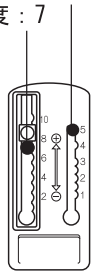
- **歩行速度 0.3m/s ～ 0.6m/s が標準です。その範囲内で調量レバー開度を調整してください。**
- **調量レバーストッパは調量レバー開度の一段上にセットします。**

畦畔噴頭

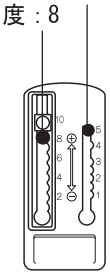
散布幅
：20～22m



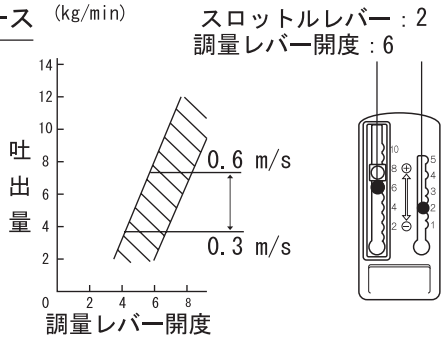
10kg/10a 散布のとき
スロットルレバー：5
調量レバー開度：7



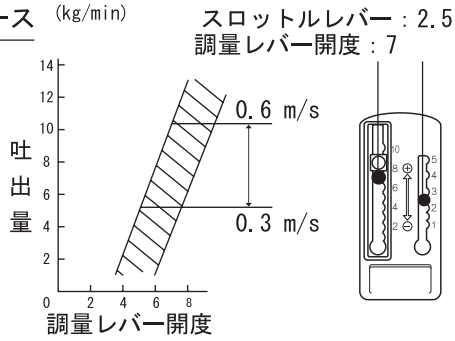
20kg/10a 散布のとき
スロットルレバー：5
調量レバー開度：8



20m 肥料用ホース



30m 肥料用ホース



5. 散布作業

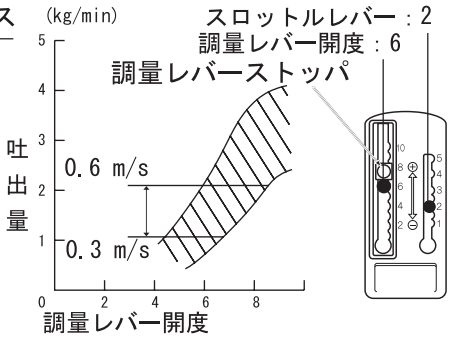
5-7. 吐出量と調量レバー（DMCY801F）

■粉剤散布（３ kg/ １０ａ散布）

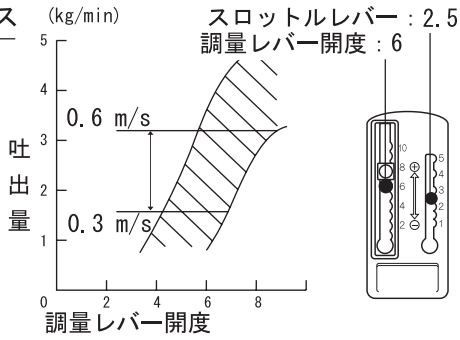
メータリングロッドは「増」の位置にセットします。（15 ページ参照）

- **歩行速度 0.3m/s ～ 0.6m/s が標準です。その範囲内で調量レバー開度を調整してください。**
- **調量レバーストッパは調量レバー開度の一段上にセットします。**

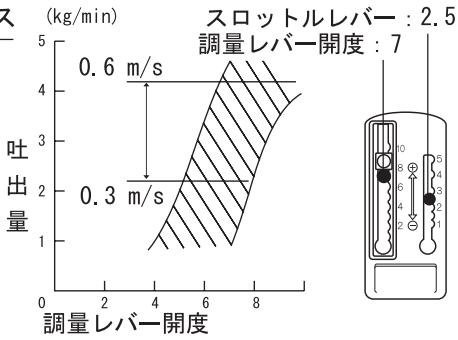
20m 散粉ホース



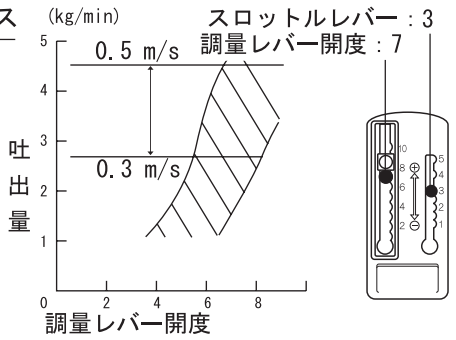
30m 散粉ホース



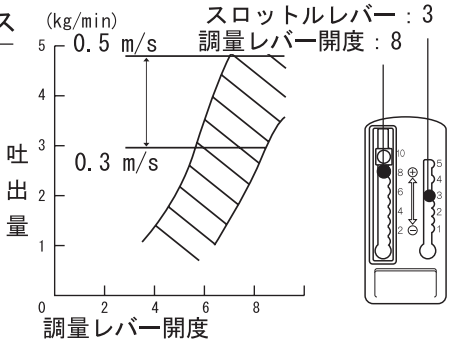
40m 散粉ホース



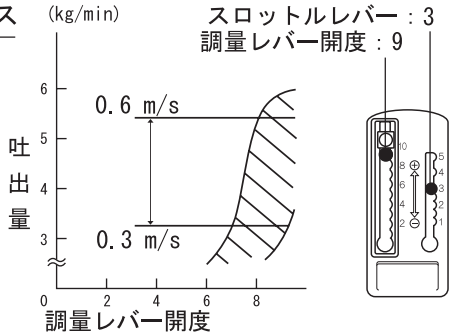
50m 散粉ホース



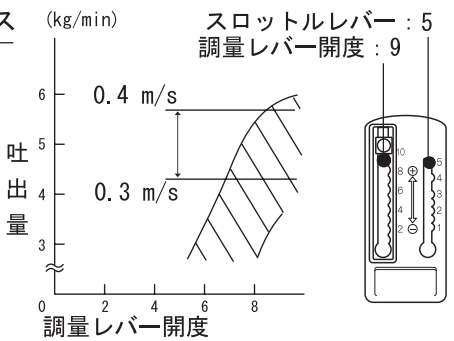
55m 散粉ホース



60m 散粉ホース



80m 散粉ホース



※６０ｍ、８０ｍ散布ホースは、使用時に散布ホース継手キットが必要な場合があります。

散布ホース継手キットが必要な散紛ホース

- **DLH-60N**
- **DLH-80N**

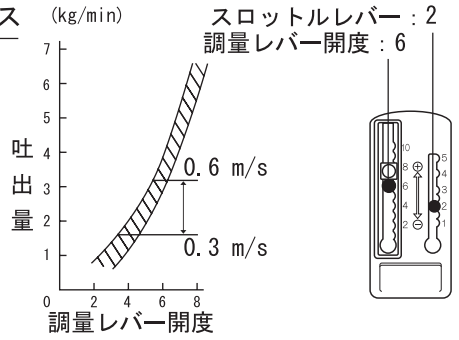
5. 散布作業

■除草剤散布（３キロ粒剤の散布）

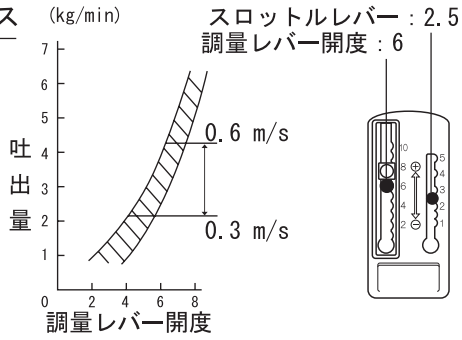
メータリングロッドは「3」の位置にセットします。(15 ページ参照)

- **歩行速度 0.3m/s ～ 0.6m/s が標準です。その範囲内で調量レバー開度を調整してください。**
- **調量レバーストッパは調量レバー開度の一段上にセットします。**

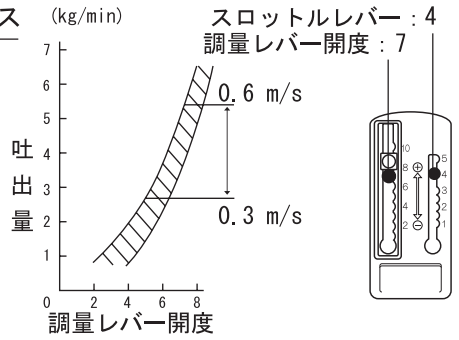
30m 散粒ホース



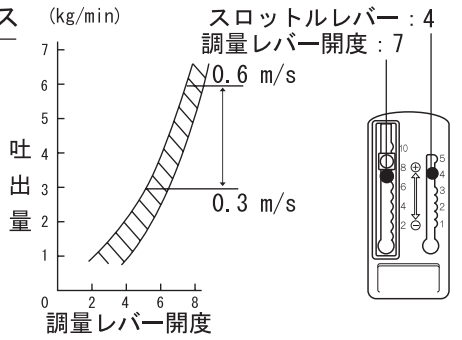
40m 散粒ホース



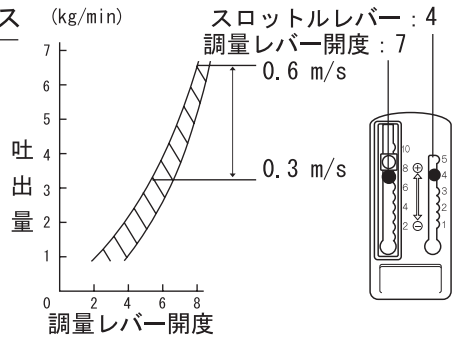
50m 散粒ホース



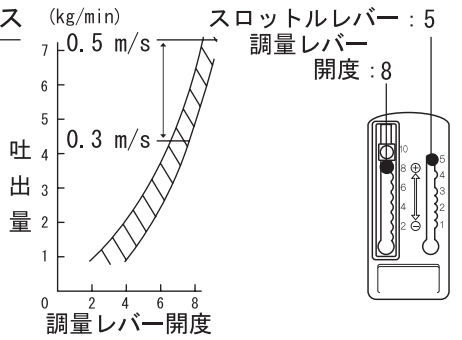
55m 散粒ホース



60m 散粒ホース

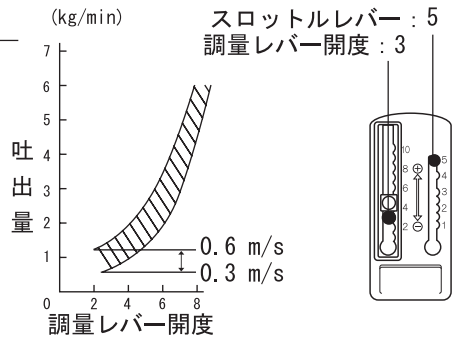


80m 散粒ホース



畦畔噴頭

散布幅
：12～14m



※６０ｍ、８０ｍ散布ホースは、使用時に散布ホース継手キットが必要な場合があります。

散布ホース継手キットが必要な散粒ホース

- **DMHG600N**
- **DMHG800N**

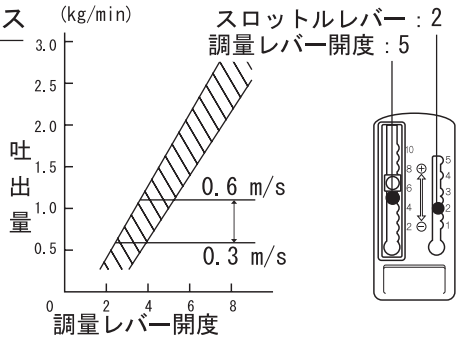
5. 散布作業

■除草剤散布（１キロ粒剤の散布）

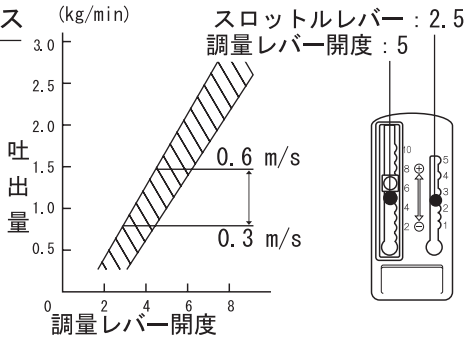
メータリングロッドは「1」の位置にセットします。(15 ページ参照)

- **歩行速度 0.3m/s ～ 0.6m/s が標準です。その範囲内で調量レバー開度を調整してください。**
- **調量レバーストッパは調量レバー開度の一段上にセットします。**

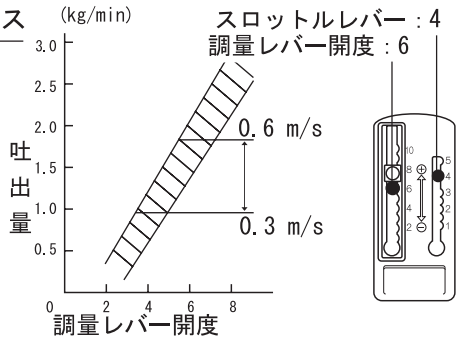
30m 散粒ホース



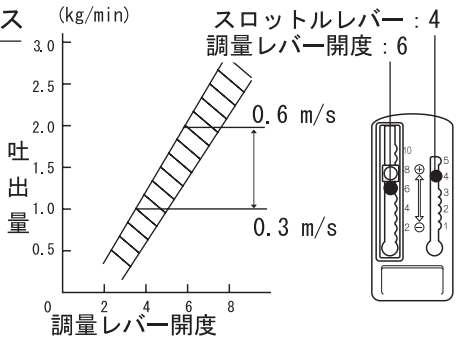
40m 散粒ホース



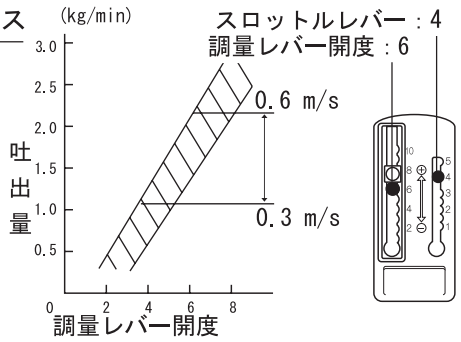
50m 散粒ホース



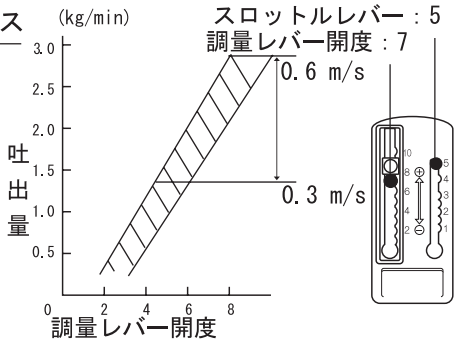
55m 散粒ホース



60m 散粒ホース

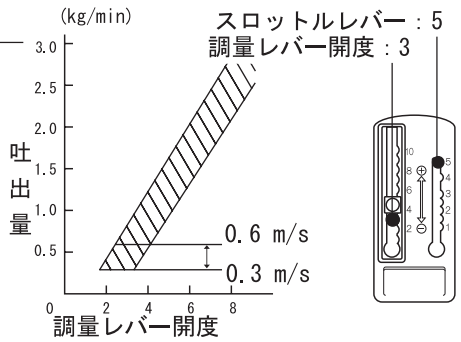


80m 散粒ホース



畦畔噴頭

散布幅
：15～18m



※６０ｍ、８０ｍ散布ホースは、使用時に散布ホース継手キットが必要な場合があります。

散布ホース継手キットが必要な散粒ホース

- **DMHG600N**
- **DMHG800N**

5. 散布作業

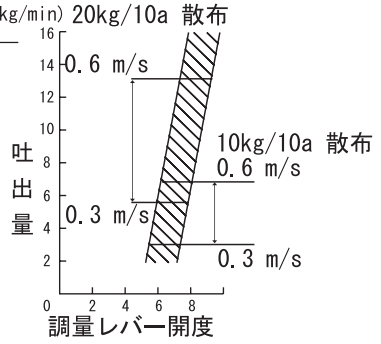
■肥料散布

メータリングロッドは「増」の位置にセットします。(15 ページ参照)

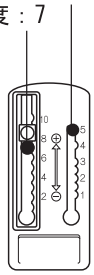
- **歩行速度 0.3m/s ～ 0.6m/s が標準です。その範囲内で調量レバー開度を調整してください。**
- **調量レバーストッパは調量レバー開度の一段上にセットします。**

畦畔噴頭

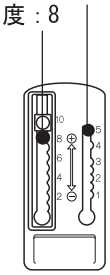
散布幅
：21～23m



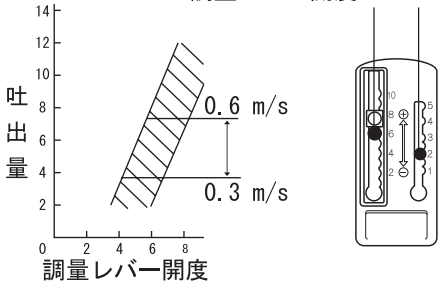
10kg/10a 散布のとき
スロットルレバー：5
調量レバー開度：7



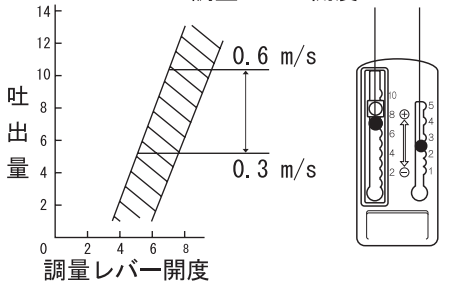
20kg/10a 散布のとき
スロットルレバー：5
調量レバー開度：8



20m 肥料用ホース



30m 肥料用ホース



6. 点検・整備

6-1. 点検・整備の目安

お買い求め頂いた製品を調子よく安全にご使用いただくために、定期的に点検・整備を行なってください。

重 要
年単位および月単位の整備間隔については、実際の使用状況と経験から判断し必要に応じて点検・整備の回数を増やしてください。

点検・整備箇所	点検・整備内容	掲載ページ	毎回	毎月	毎年
エアフィルタ	点検 / 清掃 / 交換	35	○		
燃料系統	点検	35	○		
燃料フィルタ	点検 / 交換	35		○	
スパークプラグ	点検 / 清掃と調整 / 交換	36		○	
キャブレタ	点検	ー			○
シリンダフィン	点検 / 清掃	36	○		
マフラ	点検 / 増し締め / 清掃	36	○		
ファンケースグリッド	点検 / 清掃	36	○		
薬剤タンクと散布装置	点検 / 清掃	37	○		
ネジ、ボルト、ナット類	点検 / 増し締め / 交換	ー	○		

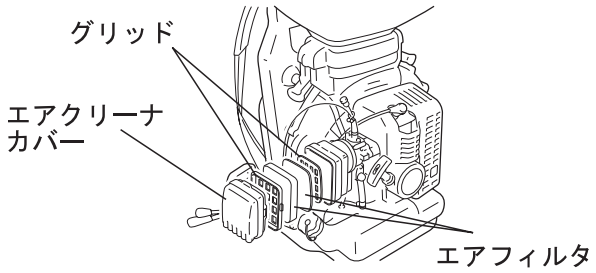
6. 点検・整備

6-2. 点検・整備要領

重 要

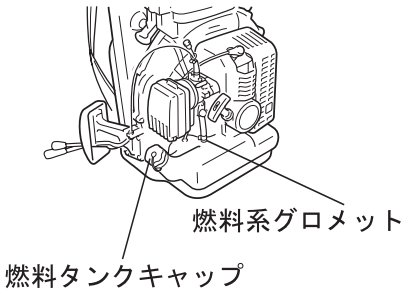
- **作業が終了した後は、製品をよく清掃し常に最良の状態に点検・整備しておくことが、次回の散布作業を順調に進めるのに最も大切なことです。**
- **使用後は、必ずエアフィルタを清掃してください。**
- **燃料タンクは常に清掃しておきます。燃料タンクにゴミや砂などが入らないようにしてください。**
- **燃料フィルタが汚れていると、エンジン不調の原因となります。**
- **燃料フィルタの点検・交換時は、燃料フィルタが燃料タンクの底面に届いていることを確認してください。**
- **スパークプラグは締付け過ぎないでください。**
- **フックの長さの調整で薬剤タンクの締付けの調整が可能ですが、締め過ぎないでください。**
- **ご不明の点については、お買い求めの販売店にご相談ください。**

■エアフィルタの点検 / 清掃



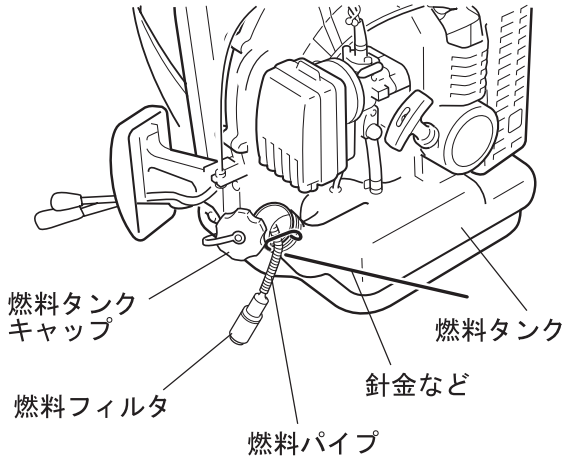
1. **チョークレバーを「閉」の位置にしてから、エアクリーナカバー、グリッド、エアフィルタを取外してください。**
2. **エアフィルタの汚れ具合を点検し、汚れがひどい場合は中性洗剤で洗ってください。洗剤を使用した場合は、充分に水洗いをし、よく乾かしてください。**
3. **エアフィルタを完全に乾かしたのち、元の位置に取付けてください。**

■燃料系統の点検



1. **ご使用前に燃料を補給した後、燃料タンクキャップを確実に締付け、燃料パイプ、燃料系グロメット、燃料タンクキャップ周辺から燃料の漏れ、にじみがないことを確認してください。**
2. **燃料の漏れ、にじみがある場合は、火災の原因となりますので、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。**

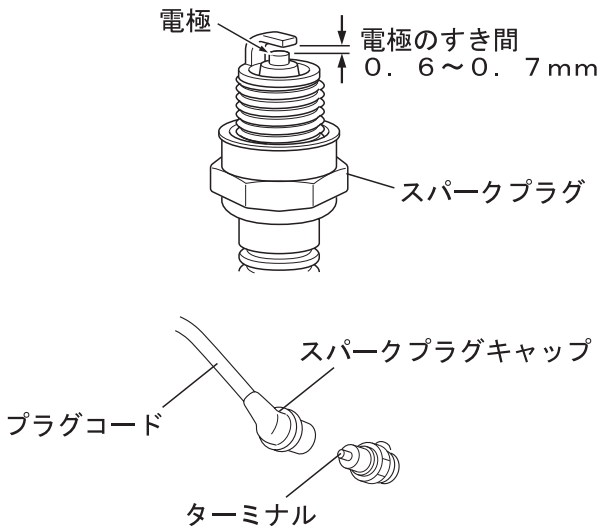
■燃料フィルタの点検 / 交換



1. **燃料タンクキャップを外してください。**
2. **針金などを使用して、燃料パイプに傷をつけないように燃料フィルタを燃料タンクの給油口から取出してください。**
3. **燃料が劣化していたり、水分やゴミが混入している場合には、燃料を交換してください。**
4. **上記 3. の場合にはタンク内や燃料フィルタ、燃料パイプも洗浄します。**
5. **燃料フィルタ部分が黒く硬くなっている場合は汚れていますので、燃料パイプから古い燃料フィルタを取外し、新しい燃料フィルタと交換してください。**
6. **燃料フィルタが燃料タンクの底面に届いていることを確認してください。**
7. **点検・交換後は、燃料タンクキャップを確実に締付けてください。**

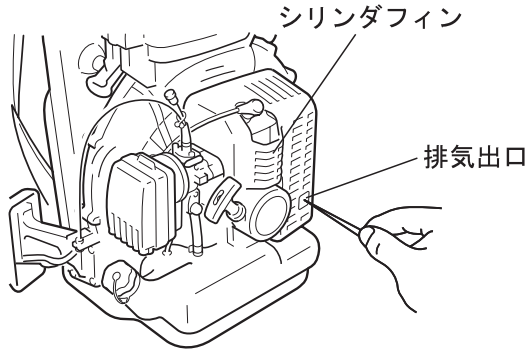
6. 点検・整備

■スパークプラグ関連の点検



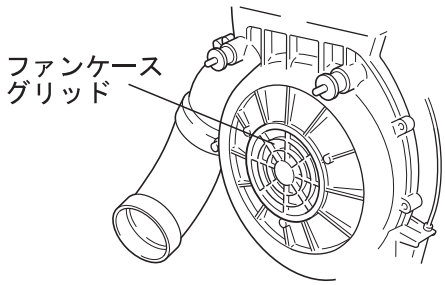
1. 付属のソケットレンチ（１９ mm）でスパークプラグを外してください。
2. 電極やターミナルが摩耗しているとき、すき間が規定寸法（０．６～０．７ mm）でないとき、また電極の周囲にオイルや堆積物が付いているときは、新品と交換してください。
3. スパークプラグは、付属のソケットレンチでしっかり締付けてください。
   参考：締付けトルクは１５～１７ N・m（１５０～１７０ ｋｇｆ・ｃｍ）です。
4. スパークプラグキャップの接続に異常がないか、プラグコードやスパークプラグキャップにヒビ割れ、ピンホールなどがないかを点検します。

■シリンダフィンとマフラの点検



- シリンダフィンは常に清掃してください。
  シリンダフィンの間に物が詰まると、エンジンがオーバーヒートする恐れがあります。木の棒などを使って、芝、泥、葉、その他のゴミ屑をシリンダフィンの間から取除いてください。
- シリンダフィンは薄くて割れやすいので、清掃するときは金属の棒などで衝撃を与えないようにしてください。
- マフラのゆるみはガス漏れ、タール漏れを起こし思わぬ事故につながりますので、ゆるんでいたら必ず増し締めしてください。
- 排気出口のカーボンを取除いてください。
  エンジンの性能を一定に保つため、この作業は定期的に実施してください。

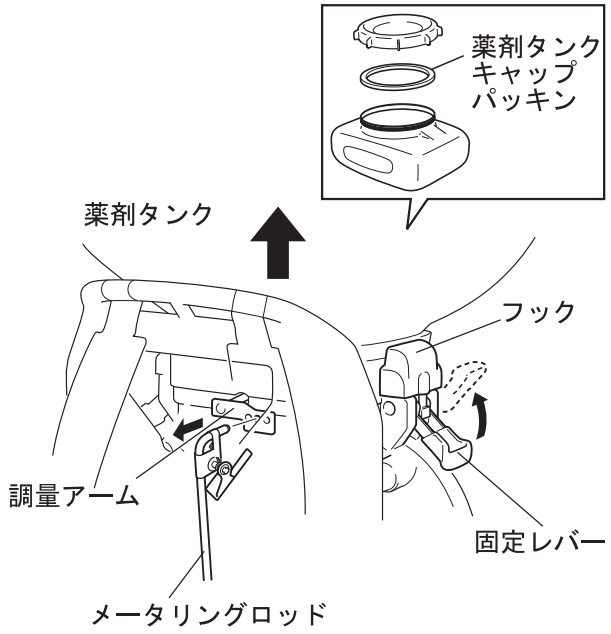
■ファンケースグリッドの点検 / 清掃



- ファンケースグリッドが詰まるとエンジンがオーバーヒートする恐れがありますので、ファンケースグリッドは毎回清掃する必要があります。
- ゴミ屑を取出すときは、エンジンが完全に停止していることを確認してから手を入れてください。
- ファンケースグリッドの中のホコリ、葉、その他のゴミをすべて取出してください。
- 異物がファンケースグリッドを通してファンケースの中に入らないように注意してください。
  異物がファンケースの中に入ると、ファンやファンケースを損傷する原因となります。

6. 点検・整備

■薬剤タンクと散布装置の点検 / 清掃



タンクの取外し

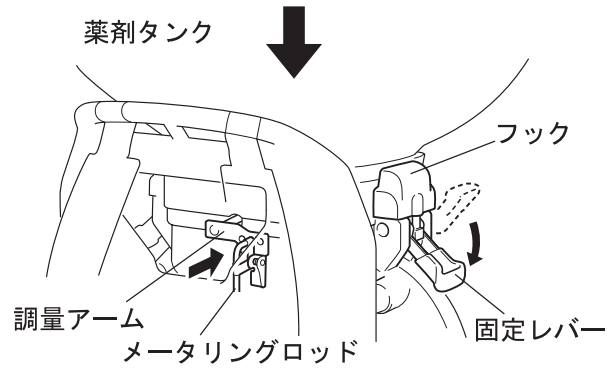
薬剤タンクの中に薬剤が残っているときは、次の要領で残った薬剤を別の容器に移してください。

1. **薬剤タンクキャップを少しゆるめ、薬剤タンク内の圧力を下げます。**
2. **調量レバーを最下位の位置にします。**
3. **メータリングロッドを調量アームから外します。**
4. **固定レバー（2 箇所）を上げ、フックをタンク部より外すと薬剤タンクが外れます。**
5. **薬剤タンクキャップを外し、タンクを逆さにして薬剤を別の容器に移します。**

掃除

- **薬剤タンクを製品本体から外し、調量シャッタおよび薬剤タンク内外面をよく清掃してください。特に肥料を散布した後の清掃は、ていねいに行なってください。**
- **薬剤タンクキャップは、常に完全な気密を保つことが必要です。薬剤タンクキャップパッキンの損傷には充分注意をはらい、必要なら交換してください。**
- **薬剤タンクキャップパッキンの保護のため、製品を使用しないときは薬剤タンクキャップをゆるめておきます。**

＊ **清掃後は､薬剤タンクを組付けてから必ず 2 ～ 3 分間低速でカラ運転してください。**



タンクの組付

1. **調量レバーを最下位にします。**
2. **薬剤タンクの調量シャッタを確実に閉じます。**
3. **薬剤タンクの前後を正しく製品本体に乗せます。**
4. **フックをタンク部に掛けてから、左右 2ヶ所の固定レバーを同時に下げて薬剤タンクを締付け固定してください。**
   フックの長さの調整で、薬剤タンクの締付けの調整ができますが、締め過ぎないでください。
5. **調量アームの穴にメータリングロッドを差し込みセットします。穴位置は、次に使用する薬剤に合わせてください。(15 ページ参照)。**

6. 点検・整備

6-3. 故障診断表

故障内容	故障診断	原因	対策
エンジンが始動困難 または始動しない	キャブレタに燃料がない	燃料フィルタの目詰まり 燃料系統の目詰まり キャブレタの不良	清掃か交換 清掃 販売店へ依頼
	キャブレタに燃料がある	キャブレタの不良 燃料の変質	販売店へ依頼 新しい燃料と交換
	クランク軸が回転しない	エンジン内部の故障	販売店へ依頼
	スパークプラグが汚れている、濡れている または発火しない	燃料の変質 電極の隙間が正しくない カーボンが付着している 電気的障害	新しい燃料と交換 調整か交換 清掃か交換 販売店へ依頼
エンジンは始動するが加速できない または加速不充分		エアフィルタの汚れ 燃料フィルタの汚れ 燃料通路の詰まり キャブレタの不良 スパークプラグの不良 排気口・マフラ出口の詰まり	清掃か交換 清掃か交換 販売店へ依頼 販売店へ依頼 清掃、調整か交換 清掃
薬剤が吐出されない または正常に出ない	シャッターメカニズムの誤作動	シャッターの変形 シャッター連動リンクのゆるみ または外れ 調量アームの調整不良	交換 調整 / 固定 調整
	薬剤が原因	薬剤が湿気をおびているか 古くなっている 薬剤の中に異物が混入 薬剤が固まっている	新しい薬剤または乾燥した薬剤を使用する 新しい薬剤と交換 固まりを砕く
	組付不良	薬剤タンクキャップのゆるみ 薬剤タンク取付け不安定	締める フックを調整し固定
ミストが吐出されない または正常に出ない		バルブが閉じている または閉じかかっている バルブの詰まり 吐出パイプの詰まり ノズルの詰まり 薬剤タンクキャップのゆるみ	 バルブを開ける 清掃 清掃 清掃 締める

- 点検・整備には専門的な知識が必要です。ご自分で点検・整備や故障対策ができない場合は、むやみに製品を分解しないで、お買い求めの販売店にご相談ください。
- 表中に記載されていない故障の場合など、ご不明の点はお買い求めの販売店にご相談ください。
- 補用品や消耗品は、必ず純正部品または指定品を使用してください。他社部品あるいは指定品以外の部品を使用すると、故障の原因となる場合があります。

6. 点検・整備

6-4. 長期保管（３０日以上）

製品を長期間（３０日以上）にわたって保管する場合は、以下に示す保管の際の整備を必ず実施してください。

1. 薬剤タンク内に残留している薬剤を取出します。薬剤タンク、シャッタ、吐出管の内側を清掃します。
   製品の外側についたオイル、ホコリやゴミ、薬剤などもきれいに拭き取ってください。
2. 本書に定められた定期的な点検をしてください。製品のすべての部分を検査し、調節してください。
   スクリュ・ナット類が締まっているか確認し、ゆるんでいる場合は増し締めしてください。
   A. 必要ならば掃除をし、修理をしてください。
   B. サビ止めに、金属部分には薄く機械油を塗ってください。
3. 燃料タンクを完全にカラにしてください。プライマリポンプを使用し、キャブレタ内の燃料も排出してください。
4. スパークプラグを外し、その取付穴から適量（１０ mL 程度）の、新しくきれいな２サイクルエンジンオイルをシリンダに入れてください。

   A. スパークプラグの取付穴の上にきれいな布を掛けてください。

   B. スタータグリップを２、３回引いて、エンジンオイルをシリンダ内に行き渡らせてください。

   C. スパークプラグ取付穴からピストンの位置を確認してください。スタータグリップをゆっくり引き、ピストンが最も上のところで止まるようにしてください。

5. スパークプラグを取付けてください。（スパークプラグキャップは接続しないでください。）
6. 製品が充分冷えて乾いてから、子供の手が届かないホコリの少ない乾燥した場所に保管してください。

製品や部品を廃棄するときは、販売店にご相談するか、自治体の指導に従ってください。

7. 仕様

型式名		DMCY601F	DMCY801F
項目	単位		
質量 （噴管・噴頭類、燃料を除く）	kg	10.8	11.5
容量 燃料タンク 薬剤タンク	 L L	 1.70 26（21 ～ 23kg）	 1.70 30（24 ～ 26kg）
外形寸法 長さ×幅×高さ （噴管・噴頭類を除く）	 mm	 415 × 505 × 760	 415 × 505 × 790
エンジン 形式 排気量 キャブレタ形式 点火方式 スパークプラグ 始動方式	 mL 	 空冷 2 サイクル単シリンダ 50.8 循環式 フライホイールマグネト電子点火方式 NGK BPM7Y リコイルスタータ	 58.2
燃料混合比		[レギュラーガソリン：２サイクルエンジンオイル] FC・FD ； [50:1] FA・FB ； [25:1]	
散布装置 送風機最大風量 基準回転速度 薬剤調量方式 粉剤最大吐出量 粒剤最大吐出量 肥料最大吐出量	 m^3/min r/min kg/min kg/min kg/min	 11.5 7,500 セレクトシャッタ方式 7.0 2.6 18.0	 12.0 8,000

※ この仕様は予告なしに変更することがあります。

8. その他

8-1. アクセサリ類（別売品）

部品名称	部品番号	備考
畦畔噴頭　DMK-2	Ｐ０２１−００３４７１	標準装備です
粒剤拡散噴頭	２１１５００−０１６１１	粒状除草剤・肥料兼用
箱剤散布噴頭	Ｐ０２２−００３１５１	
フタマタ噴頭	Ｅ１６５−０００００４０	
散粉ホース　DLH-20A	２２０９００−０１１１０	20m　ＤＬ粉剤用ホース
散粉ホース　DLH-30B	２２０９０１−０２９１０	30m　ＤＬ粉剤用ホース
散粉ホース　DLH-40D	Ｐ０２１−００４８７０	40m　ＤＬ粉剤用ホース
散粉ホース　DLH-50A	２２０９０３−０４２１０	50m　ＤＬ粉剤用ホース
散粉ホース　DLH-55A	２２０９０３−０３７１０	55m　ＤＬ粉剤用ホース
散粉ホース　DLH-30DXW	２２０９０１−０６２１１	30m　肉厚ニューホース
散粉ホース　DLH-40DXW	２２０９０２−０６２１１	40m　肉厚ニューホース
散粉ホース　DLH-50DX	２２０９０３−０６２１０	50m　肉厚ニューホース
散粉ホース　DMH-20A	２２００００−０１１１０	20m　一般粉剤用ホース
散粉ホース　DMH-30A	２２０００１−０１１１０	30m　一般粉剤用ホース
散粉ホース　DMH-40A	２２０００２−０１１１０	40m　一般粉剤用ホース
散粉ホース　DMH-50A	２２０００３−０４２１０	50m　一般粉剤用ホース
散粉ホース　DMH-55A	２２０００３−０１５１０	55m　一般粉剤用ホース
散粉ホース　DMH-60A	２２０００４−０１５１０	60m　一般粉剤用ホース
散粉ホース　DLH-60N	ＤＬＨ６０Ｎ	60m　太径ホース　※１
散粉ホース　DLH-80N	ＤＬＨ８０Ｎ	80m　太径ホース　※１
DL粉剤吹込・1kg粒剤 兼用ホース　DMHG-301	２２１１０１−０６２１０	30m　水田除草剤用ホース
DL粉剤吹込・1kg粒剤 兼用ホース　DMHG-401	２２１１０２−０６２１０	40m　水田除草剤用ホース
DL粉剤吹込・1kg粒剤 兼用ホース　DMHG-501	２２１１０３−０６２１０	50m　水田除草剤用ホース
DL粉剤吹込・1kg粒剤 兼用ホース　DMHG-551	２２１１０４−０６２１０	55m　水田除草剤用ホース
散粒ホース　DMHS-30	２２１３０１−０６２１０	30m　畑作除草剤用ホース
散粒ホース　DMHS-40	２２１３０２−０６２１０	40m　畑作除草剤用ホース
散粒ホース　DMHG600N	ＤＭＨＧ６００Ｎ	60m　太径ホース　※１
散粒ホース　DMHG800N	ＤＭＨＧ８００Ｎ	80m　太径ホース　※１

8. その他

部品名称	部品番号	備考
紋枯用ホース　DLH-20M	２２０９００−０３３１０	20m　紋枯用ホース
紋枯用ホース　DLH-30M	２２０９０１−０３３１１	30m　紋枯用ホース
紋枯用ホース　DLH-40M	２２０９０２−０３３１１	40m　紋枯用ホース
紋枯用ホース　DLH-55M	２２０９０３−０３３１０	55m　紋枯用ホース
紋枯用ホース　DLH-20M/R	２２０９２５−０３３１０	20m　紋枯用ホース（リール付）
紋枯用ホース　DLH-30M/R	２２０９２６−０３３１２	30m　紋枯用ホース（リール付）
紋枯用ホース　DLH-40M/R	２２０９２７−０３３１２	40m　紋枯用ホース（リール付）
肥料用ホース　DMHF-20B	２２１２００−０１６１０	20m　肥料用ホース
肥料用ホース　DMHF-30B	２２１２０１−０１６１０	30m　肥料用ホース
散布ホース継手キット　DMT-80	Ｐ ０２１−００２２１０	※２
ミスト装置　DMAM800-13	Ｐ ０２１−００４３２１	液剤用
ミスト装置　DMAM800-23	Ｐ ０２１−００４３３１	液剤用
ホース巻取器　DMAHR-45	２２１９００−０３３１１	簡易型
薬剤タンクジョーゴ	９９０７５０−００５０	
残量計 Assy（7 穴）	２５０００６−０５５１０	23 L 、26 L 、30 L 、45 L タンク用
ポリミックス	Ｂ ２０２−０００１５００	5 L
ポリミックス	Ｂ ２０２−００００２００	2 L

※１の太径ホースは、必ず※２の散布ホース継手キットとセットでご使用ください。

- ご購入の際は製品をお買い求めの販売店にご用命ください。
- 補用品や消耗品は必ず純正部品または指定品を使用してください。他社部品あるいは指定品以外の部品を使用すると故障の原因となる場合があります。
- 製品の仕様・性能に合わせてお選びください。ご不明な点は製品をお買い求めの販売店にご相談ください。

索 引

あ
アイドリング 20
え
エアクリーナ 14
エアクリーナカバー 35
エアフィルタ 34, 35
お
往復散布 25
か
回動噴管 13, 16
開度目盛 19, 20, 21
カラ運転 37
き
キャブレタ 14
く
グリッド 35
クリップ 15
け
警告表示 4, 5
畦畔噴頭 13, 24
こ
高温部 7
高電圧部 7
固定レバー 37
混合燃料 17, 18
さ
最大有効散布幅 24, 25
散布ホース 16, 22
散布ホース締付具 13
散布ホース継手キット 16, 42
散紛ホース 16, 23
散粒ホース 16, 24
し
ＪＡＳＯ性能分類 17
消耗品 38
除草剤 24
シリンダフィン 36
シンボルマーク 4
す
スタータグリップ 14, 19
スパークプラグ 7, 14, 36, 40
スパークプラグキャップ 36
スロットルレバー 14, 19
せ
背当て 14
静電気 6, 17
静電気帯電防止用クサリ 16
背負バンド 14
接続噴管 13, 16
た
たわみ噴管 13, 16
暖機運転 20
ち
チョークレバー 14, 19
調量アーム 15
調量シャッタ 15
調量レバー 14, 19, 22, 26, 30
調量レバーストッパ 22, 26, 30
直噴管 13, 16
つ
２サイクルエンジンオイル 17
追肥 25
て
ＤＬ粉剤 23
手締めバンド 13
電極 7, 36
テンションスプリング 16
と
吐出量 22
な
中持ち作業 10, 22
ね
燃料 6, 17, 18
燃料系グロメット 6, 17, 35
燃料タンク 14, 18
燃料タンクキャップ 6, 14, 17, 18, 35
燃料パイプ 6, 17, 35
燃料フィルタ 35
燃料戻りパイプ 19
の
農薬 11
農薬取締法 11
は
排気ガス 7
発火テスト 7
パッキン 16
ひ
被覆肥料 25
肥料 25
ふ
ファンケースグリッド 36
フック 37
プライマリポンプ 14
プラグコード 7, 36
粉剤 22
ほ
ホース継手 13, 16
保護具 12
補用品 38
ポリミックス 17
ま
曲噴管 13, 16
マフラ 36
マフラカバー 14
め
メータリングロッド 15
や
薬剤タンク 14, 37
薬剤タンクキャップ 14, 37
薬剤タンクキャップパッキン 37
り
粒剤 24
粒剤拡散噴頭 25

メ　モ

メ　モ

メ　モ

ヤンマー農機株式会社

本　　社　〒530-8321 大阪府大阪市北区茶屋町１番３２号
電話(06)6376-6345　　FAX(06)6373-1493

ヤンマー農機販売会社

ホクトヤンマー株式会社
〒067-0051 北海道江別市工栄町１０番６号
電話(011)381-2300　　FAX(011)381-2330

株式会社ヤンマー農機東日本
〒984-0014 宮城県仙台市若林区六丁の目元町16番1号
電話(022)288-8451　　FAX(022)288-8452

株式会社ヤンマー農機関東
〒360-0026 埼玉県熊谷市大字久下字上分１２４３-１
電話(048)527-8811　　FAX(048)527-8823

株式会社ヤンマー農機甲信
〒390-1301 長野県東筑摩郡山形村字北野尻８１２９-１
電話(0263)97-3100　　FAX(0263)97-3366

株式会社ヤンマー農機新潟
〒950-1101 新潟県新潟市西区山田２２２番地
電話(025)231-7730　　FAX(025)231-7765

株式会社ヤンマー農機北陸
〒924-0051 石川県白山市福留町６１５番地１
電話(076)277-3950　　FAX(076)277-3955

株式会社ヤンマー農機東海
〒452-0805 愛知県名古屋市西区市場木町390番地ミユキビル2階
電話(052)506-2471　　FAX(052)506-2470

株式会社ヤンマー農機関西
〒530-0013 大阪市北区茶屋町4番4号 ヤンマー別館ビル4階
電話(06)6376-6413　　FAX(06)6376-8477

株式会社ヤンマー農機西日本
〒710-0024 岡山県倉敷市亀山６２２
電話(086)428-5151　　FAX(086)428-5179

株式会社ヤンマー農機四国
〒763-0083 香川県丸亀市土器町北２丁目４３番地
電話(0877)22-1325　　FAX(0877)22-3166

株式会社ヤンマー農機九州
〒833-0001 福岡県筑後市大字一条５３５番地２
電話(092)611-1910　　FAX(092)611-1963

ヤンマー沖縄株式会社
〒901-2223 沖縄県宜野湾市大山７丁目１１番１２号
電話(098)898-3111　　FAX(098)898-8082

お客様メモ

購入日　　平成　　年　　月　　日
購入店名

YANMAR

ヤンマー農機株式会社

X750-012 26 0
X750106-700 0

0612zzz xxxx ES